

吹田市第4次総合計画中間見直し

市民参画・周知の 取組報告書

令和5年（2023年）3月

吹田市

《 目 次 》

I. 実施概要	1
1. 実施目的	1
2. 実施概要	1
II. 吹田市のまちづくりに関する市民アンケート	3
1. 調査概要	3
(1) 調査の目的	3
(2) 調査期間	3
(3) 調査対象	3
(4) 調査方法	3
(5) 調査項目	3
(6) 回答結果	3
2. 調査結果	4
(1) 回答者の属性	4
(2) 社会状況の変化の生活への影響	9
(3) SDGs について	14
(4) 総合計画の 19 のめざすまちの姿の到達度	17
(5) 吹田市のまちづくりに対する意見	22
III. 商業施設アンケート	23
1. 調査概要	23
(1) 調査の目的	23
(2) 調査日・場所	23
(3) 調査方法	23
(4) 調査対象	23
(5) 調査項目	23
(6) 回答結果	23
2. 調査結果	24
(1) あなたが SDGs で重視するゴール（パネルアンケート）	24
(2) 総合計画の 19 のめざすまちの姿の到達度（タブレットアンケート）	26
IV. 吹田市のまちづくりに関する大学生アンケート	39
1. 調査概要	39
(1) 調査の目的	39
(2) 調査日	39

(3) 調査方法	39
(4) 調査対象	39
(5) 調査項目	39
(6) 回答結果	39
2. 調査結果	40
(1) 回答者の属性	40
(2) 総合計画の 19 のめざすまちの姿の到達度	41
V. 参考：吹田市職員アンケート	43
1. 調査概要	43
(1) 調査の目的	43
(2) 調査日	43
(3) 調査方法	43
(4) 調査対象	43
(5) 調査項目	43
(6) 回答結果	43
2. 調査結果	44
(1) 回答者の属性	44
(2) 総合計画の 19 のめざすまちの姿の到達度	45
(3) SDGs の認知度、注力すべきゴール	48
VI. #2050 すいたストーリー	50
1. 募集概要	50
(1) 募集の目的	50
(2) 募集期間	50
(3) 対象	50
(4) 募集方法	50
(5) 募集結果	50
(6) 募集テーマ	50
2. 募集結果	51
(1) 「#2050 すいたストーリー」の例	51
(2) 総合計画の大綱ごとによる分類	52
VII. 市民公益活動団体ワークショップ	55
1. ワークショップ概要	55
(1) ワークショップの目的	55
(2) ワークショップの日時・対象・テーマ・実施方法	55
2. ワークショップの結果（総括）	55

3. ワークショップの結果（詳細）	56
(1) 各グループでの意見	56
VIII. 総合計画 PR 動画の作成	57
1. 概要	57
(1) 目的.....	57
(2) 動画内容.....	57
(3) 公開日.....	57
2. 動画の内容	57
(1) 動画の登場人物.....	57
(2) PR 動画の台本.....	58
(3) 視聴状況（令和5年（2023年）3月1日現在）	60
(4) 動画イメージ	61
IX. 総合計画 PR ポスター・チラシ	62
X. 附属資料.....	63

I. 実施概要

1. 実施目的

吹田市第4次総合計画（以下「総合計画」という。）は、めざすべき将来像を見通し、本市のまちづくりを推進するため、令和元年度（2019年度）から令和10年度（2028年度）までの10年間の指針として策定しているものである。

総合計画策定後、本市では、中核市移行（とりわけ保健所設置市としての感染症や地域医療に関連する役割、自治体間連携）、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響（とりわけデジタル化やキャッシュレスへの対応）、災害の頻発、暑熱環境の悪化、脱炭素・脱プラスチックに向けた取組、SDGsの推進、本市の個別計画等の策定や改定など、様々な動きがあり、本市を取り巻く状況は大きく変わりつつある。

これらの動向を踏まえ、計画期間の後半（令和6年度（2024年度）～令和10年度（2028年度））に向け、中間見直しとして、必要に応じた増補、追補及び時点修正を行うに当たって、市民に総合計画について改めて周知するとともに、市民のまちづくりに関する意見等を聴取し、適切に反映することを目的として取組を実施したものである。

2. 実施概要

それぞれの実施概要については下記のとおり（詳細については後掲）。

市民参画手法とその概要

名称・手法	概要
吹田市のまちづくりに関する市民アンケート	調査期間：令和4年（2022年）9月1日～16日 調査対象：無作為抽出による18歳以上の吹田市在住者3,000人 回答結果：有効回答数1,102件、有効回収率36.9% 調査項目：1 コロナや社会状況の変化による生活の変化 2 SDGsの認知度、注力すべきゴール 3 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度
商業施設アンケート	調査日：令和4年（2022年）10月25日、11月11日、23日 場所：イオン吹田店、イオン北千里店、ららぽーとEXPOCITY 調査対象：商業施設来場者 回答結果：パネルアンケート回答522件、タブレットアンケート回答269件 調査項目： 1 あなたがSDGsで重視するゴール（パネルアンケート） 2 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度（タブレットアンケート）
吹田市のまちづくりに関する大学生アンケート	調査日：令和4年（2022年）12月5日、13日 調査対象：関西大学及び大阪学院大学の学生 （両大学で行った吹田市企画財政室による講義の受講生） 回答結果：有効回答数178件 調査項目：総合計画の19のめざすまちの姿の到達度

名称・手法	概要
参考： 吹田市職員アンケート	調査期間：令和4年（2022年）9月～10月 調査対象：吹田市職員 回答結果：有効回答数 629 件 調査項目：1 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度 2 SDGsの認知度、注力すべきゴール
#2050 すいたストーリー	募集期間：令和4年（2022年）10月15日～12月31日 対 象：吹田市に関心がある方 募集結果：258 件 （千里高校でのプレ企画（令和4年（2022年）6月実施）を含む） 募集テーマ：あなたの思い描く2050年のすいた （プレ企画の千里高校では、「2050年（2032年）のある日、吹田市に暮らす私の日記」として募集）
市民公益活動団体 ワークショップ	実 施 日：令和5年（2023年）2月13日 対 象：吹田市内で活動する市民公益活動団体 参加人数：19名（18団体） 意見交換テーマ： 1 新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響など、活動する中で感じた変化 行政とは異なる視点から見えたトピックス 2 行政と市民公益活動団体とがさらに協働しながら進めたいこと

市民参画・周知のための広報物とその概要

広報物	概要
総合計画 PR 動画	総合計画を知ってもらうためのきっかけとなるよう、キャラクター（スイタロー）を使用した親しみやすい動画を作成し、YouTubeの吹田市動画配信チャンネルで公開
総合計画 PR ポスター・チラシ	商業施設アンケートや#2050 すいたストーリーを告知するための媒体としてポスター・チラシを作成し、市内公共施設や大学等に掲示。

II. 吹田市のまちづくりに関する市民アンケート

1. 調査概要

(1) 調査の目的

まちづくりに関する市民の意見等をお聞きし、総合計画見直しの基礎資料とすることを目的に実施

(2) 調査期間

令和4年（2022年）9月1日（木）～9月16日（金）

(3) 調査対象

無作為抽出による18歳以上の吹田市在住者3,000人
（令和4年（2022年）7月31日時点の住民基本台帳による）

(4) 調査方法

Web アンケート回答用の URL 及び QR コードを記載した回答依頼ハガキを送付し、Web 回答による回収を行った。ただし、Web での回答が難しい対象者には、要望に応じて紙の調査票を郵送し、回答も郵送とした。

(5) 調査項目

- ア コロナや社会状況の変化による生活の変化
- イ SDGs の認知度、注力すべきゴール
- ウ 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度

(6) 回答結果

回収率は以下のとおり

※ 不到達 16 件を発送数 3,000 件から除き算出

図表 II-1 回収率等

発送数	有効回答数	有効回収率
3,000	1,102	36.9%

2. 調査結果

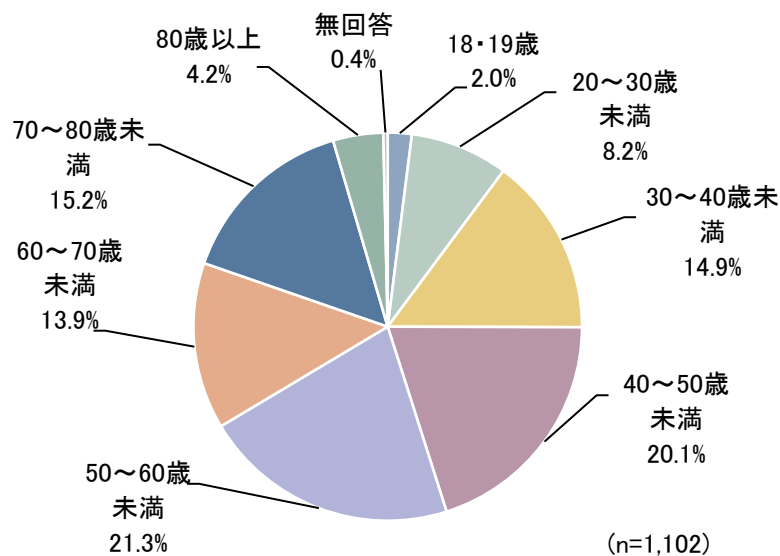
(1) 回答者の属性

ア 年齢

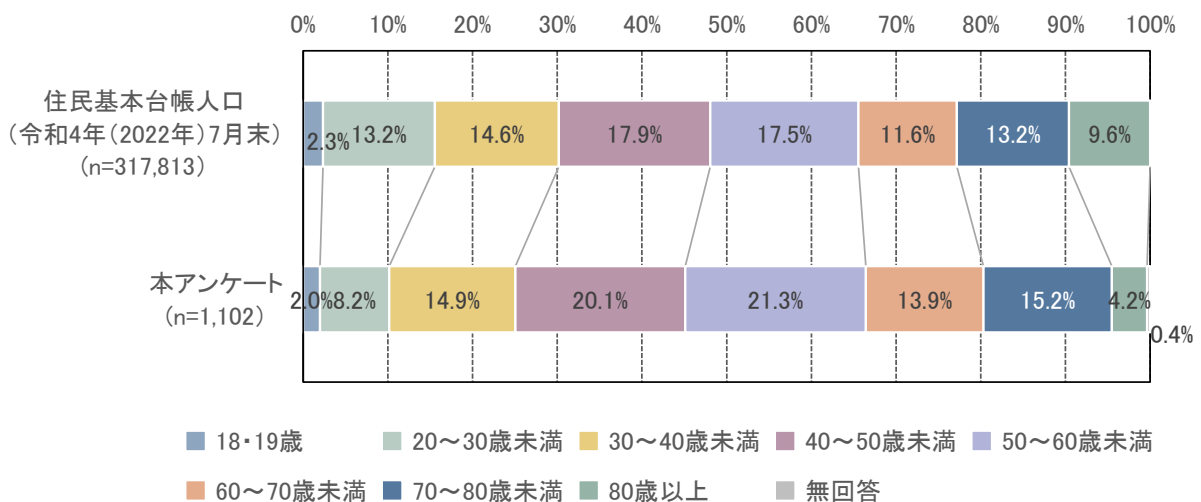
回答者の年齢は、「50～60 歳未満」（21.3%）の割合が最も高く、次に「40～50 歳未満」（20.1%）、「70～80 歳未満」（15.2%）が続く。

本アンケートの年齢別回収率と、アンケート対象者抽出時点（令和4年（2022年）7月末）の年齢別人口比率を比較すると、30～40 歳未満、40～50 歳未満、50～60 歳未満、60～70 歳未満で、年齢別人口比率よりも本アンケートの回収率の割合が高くなっている。

図表 II-2 市民アンケート回答者の年齢割合



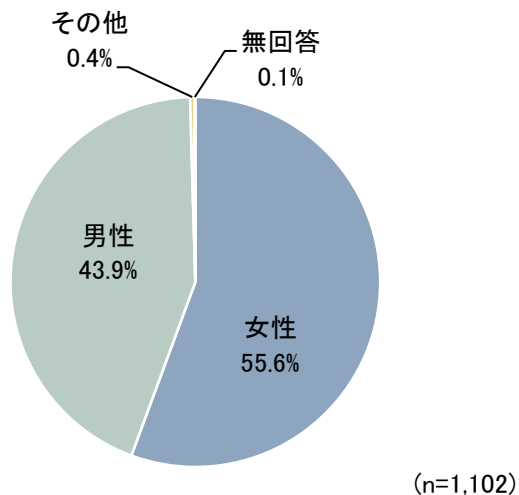
図表 II-3 市民アンケートの年齢別回収率と人口比率の比較



イ 性別

回答者の性別で見ると、「女性」(55.6%)の方が、「男性」(43.9%)よりも回答割合が多い。

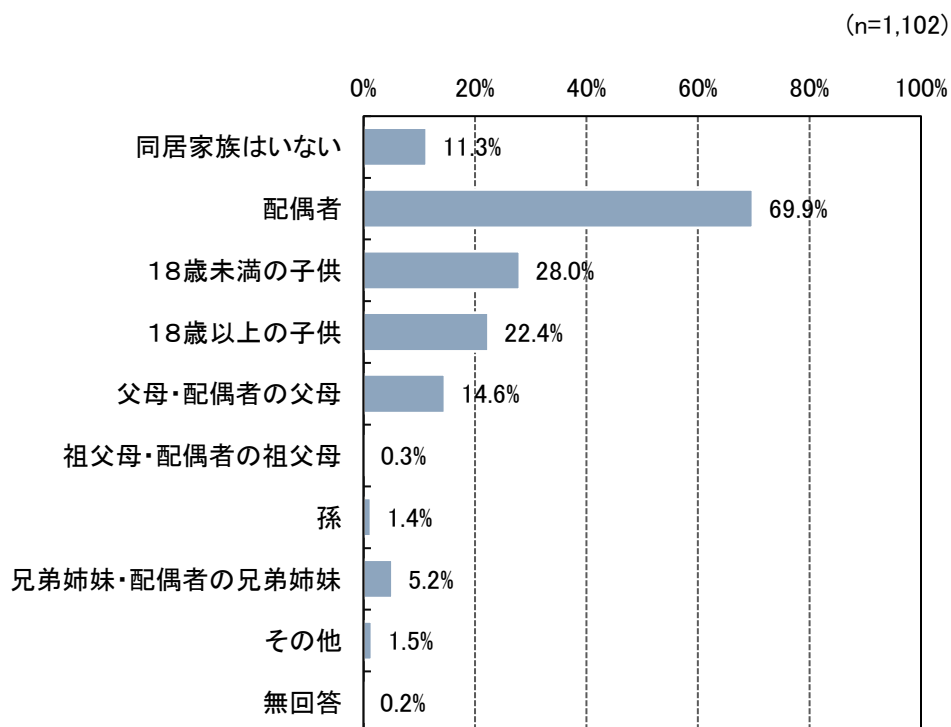
図表 II-4 市民アンケート回答者の性別割合



ウ 同居家族

回答者の同居家族は、「配偶者」(69.9%)の割合が最も高く、次に「18歳未満の子供」(28.0%)、「18歳以上の子供」(22.4%)が続く。

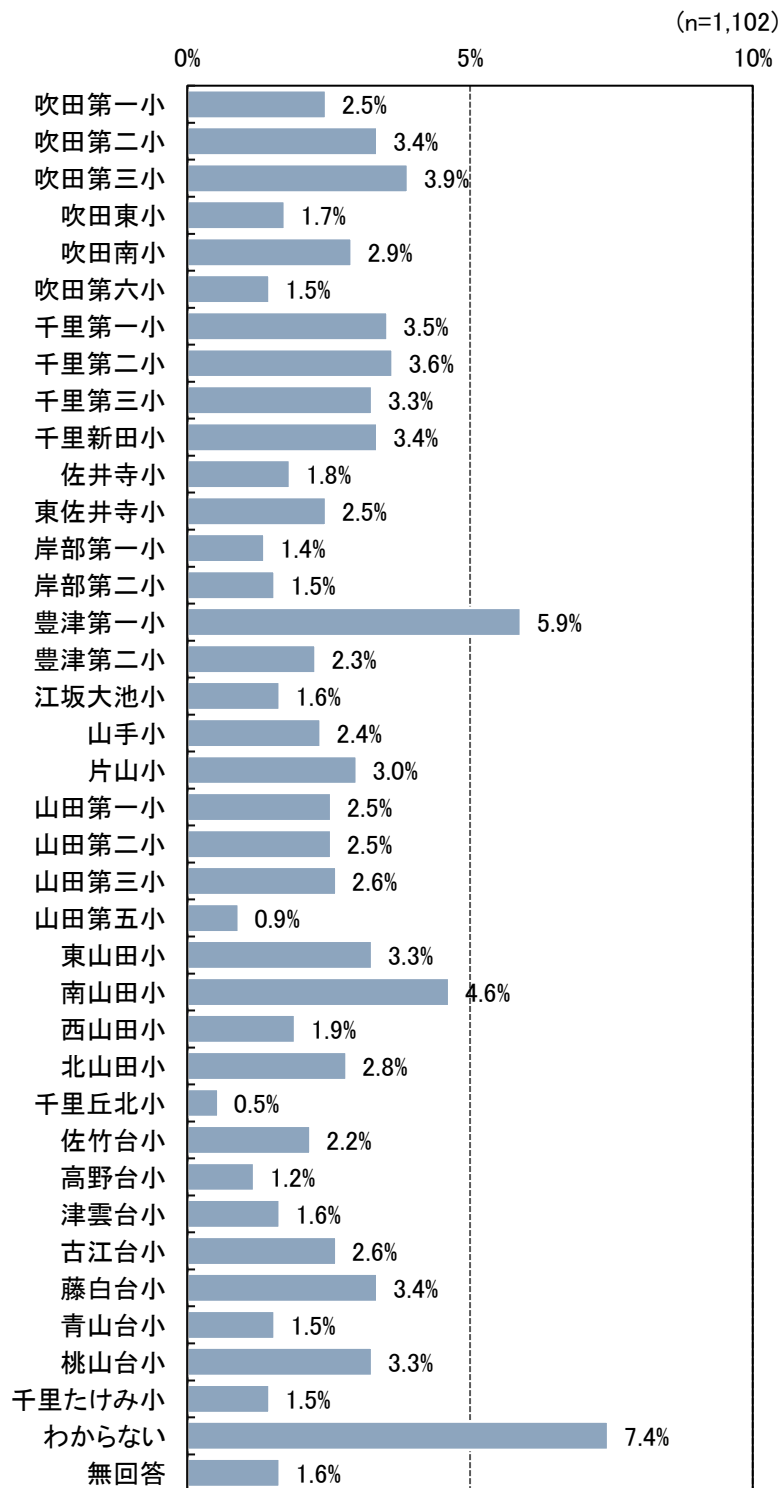
図表 II-5 同居家族



工 居住する小学校区

回答者が居住する小学校区は、以下のとおりである。

図表 II-6 居住する小学校区



オ 居住する小学校区（6つのブロックによる集計）

居住する小学校区を6つのブロックに分類した集計は、以下のとおりである。

なお、当該分類は小学校区に基づいた便宜的なものであり、総合計画に示す6つのブロックとは異なる。

(ア) JR以南地域

吹田第一小学校、吹田第三小学校、吹田東小学校、吹田第六小学校

(イ) 片山・岸部地域

千里第一小学校、岸部第一小学校、岸部第二小学校、山手小学校、片山小学校

(ウ) 豊津・江坂・南吹田地域

吹田第二小学校、吹田南小学校、豊津第一小学校、豊津第二小学校、江坂大池小学校

(エ) 千里山・佐井寺地域

千里第二小学校、千里第三小学校、千里新田小学校、佐井寺小学校、東佐井寺小学校

(オ) 山田・千里丘地域

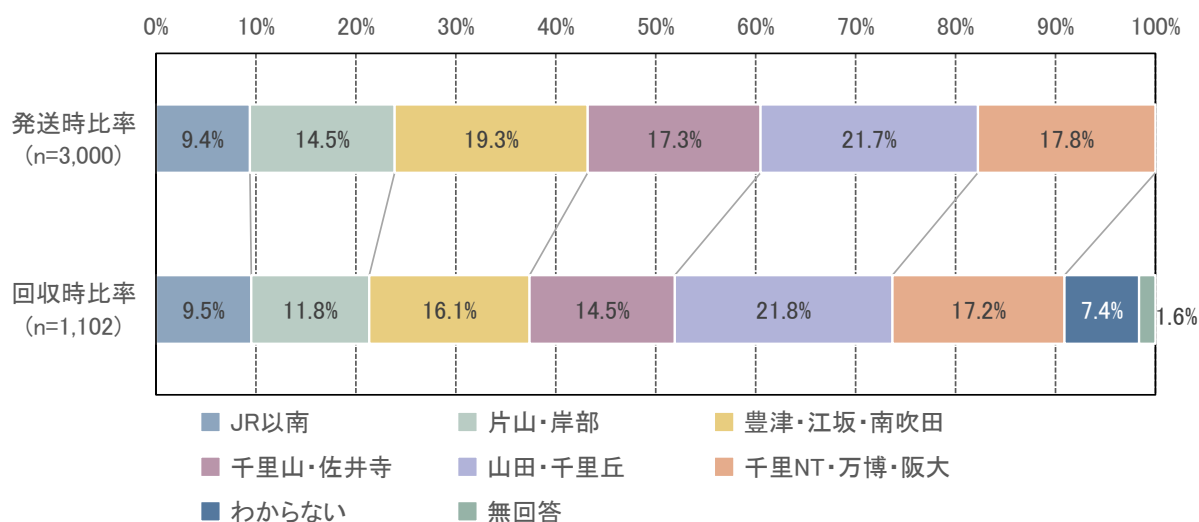
山田第一小学校、山田第二小学校、山田第三小学校、山田第五小学校、東山田小学校
南山田小学校、西山田小学校、北山田小学校、千里丘北小学校

(カ) 千里ニュータウン・万博・阪大地域

佐竹台小学校、高野台小学校、津雲台小学校、古江台小学校、藤白台小学校
青山台小学校、桃山台小学校、千里たけみ小学校

回答依頼ハガキ発送時の地区別発送数比率と、地区別回収時比率を比較すると、回収時の「片山・岸部」、「豊津・江坂・南吹田」及び「千里山・佐井寺」の比率が、発送時よりもやや小さく、また「わからない」と「無回答」の合計が概ね1割となっている。

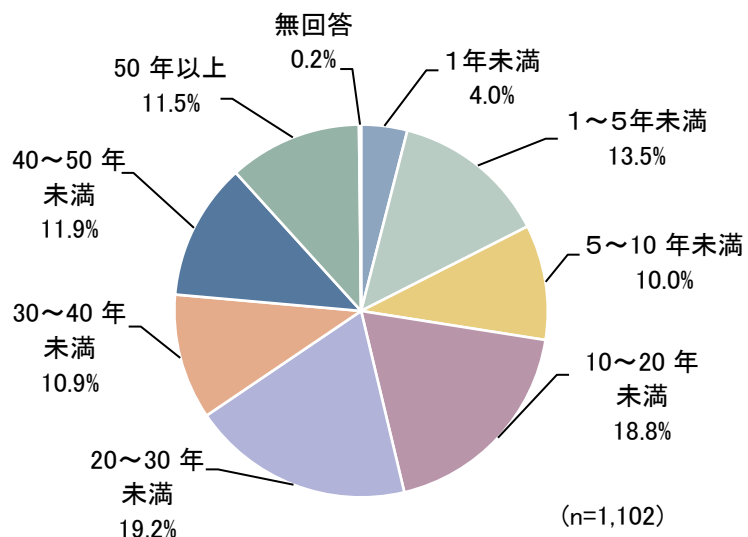
図表 II-7 居住する小学校区(6つのブロックによる集計)



カ 吹田市での居住年数

回答者の吹田市での居住年数は、「20～30年未満」（19.2％）の割合が最も高く、次に「10～20年未満」（18.8％）、「1～5年未満」（13.5％）が続く。

図表 II-8 市民アンケート回答者の居住年数割合



(2) 社会状況の変化の生活への影響

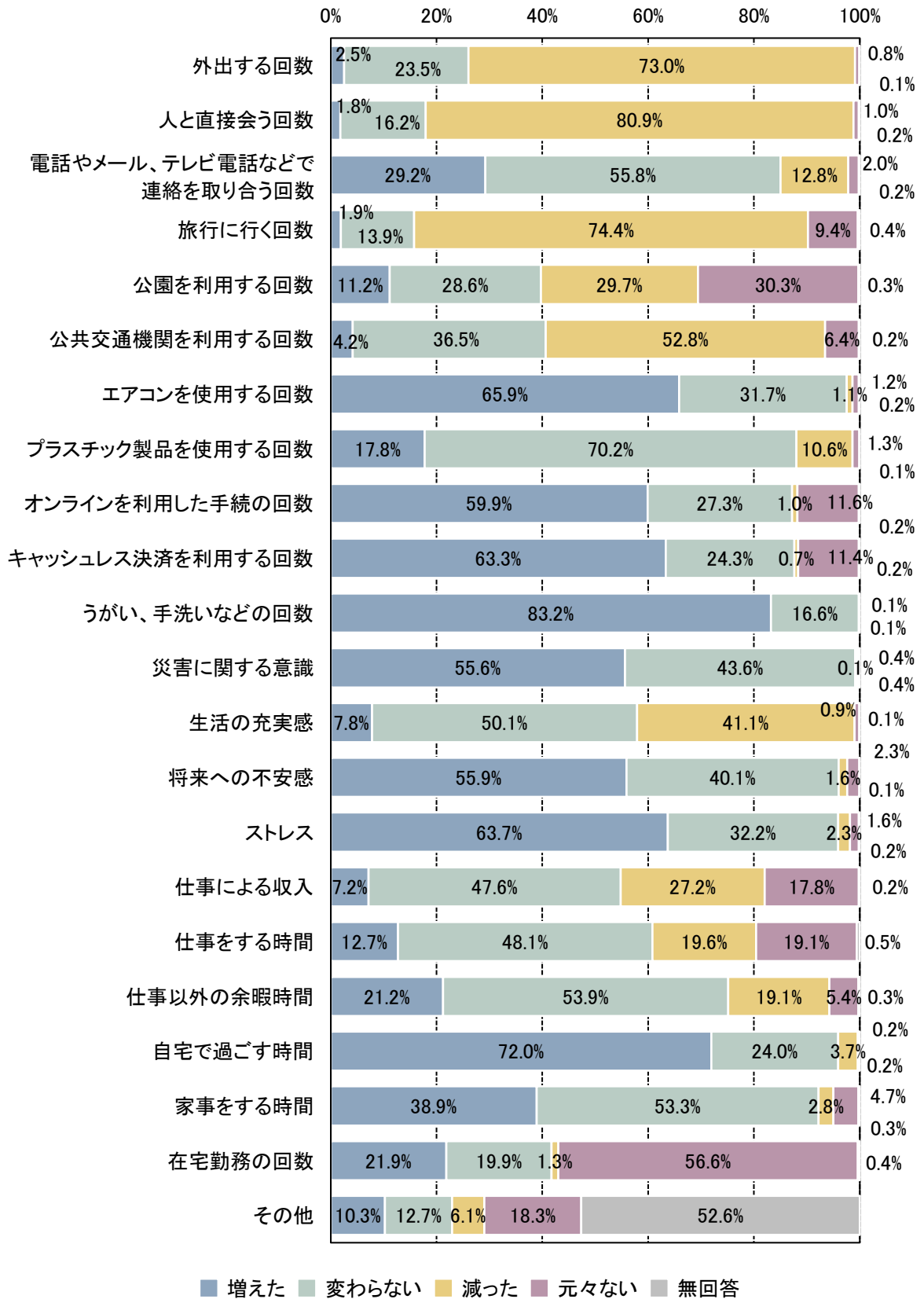
新型コロナウイルス感染症の感染拡大や災害の頻発、気候変動などの社会状況の変化による生活への影響について、2、3年前と現在とを比較して尋ねた。

「増えた」の割合が高いのは、「エアコンを使用する回数」(65.9%)、「うがい、手洗いなどの回数」(83.2%)など、新型コロナウイルス感染症の感染予防にも関連した行動、「オンラインを利用した手続の回数」(59.9%)、「キャッシュレス決済を利用する回数」(63.3%)など、非接触型の生活様式に関連する行動、「自宅で過ごす時間」(72.0%)や「ストレス」(63.7%)など、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う外出抑制に関連すると思われる行動のほか、「災害に関する意識」(55.6%)や「将来への不安感」(55.9%)などである。

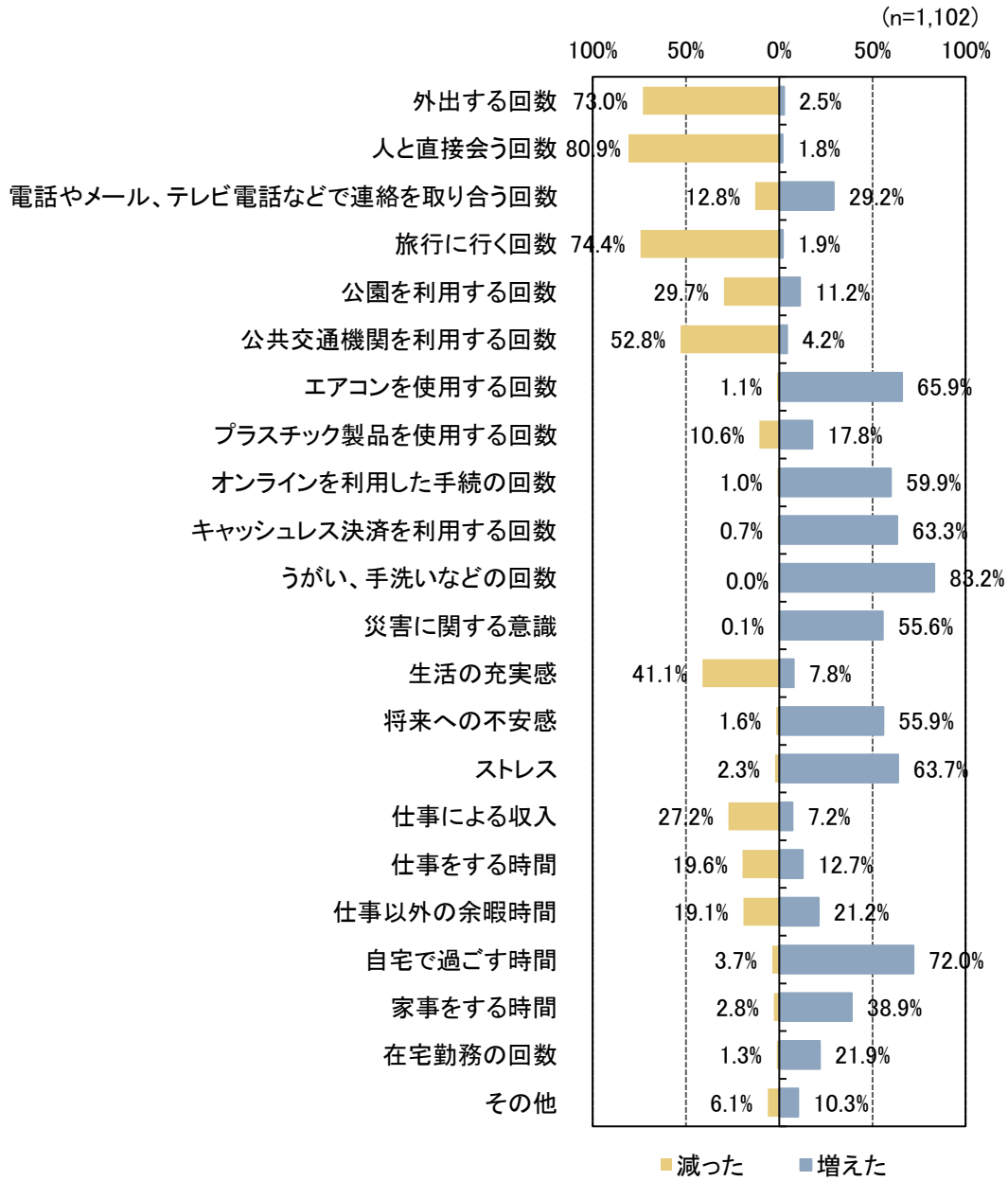
一方、「減った」の割合が高いのは、「外出する回数」(73.0%)、「人と直接会う回数」(80.9%)、「旅行に行く回数」(74.4%)、「公共交通機関を利用する回数」(52.8%)などの新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う外出抑制に関連する行動のほか、「生活の充実感」(41.1%)が減ったとする割合も高い。

なお、「その他」のうち、「増えた」では、家族と(家族だけで)過ごす時間やネットショッピング・ネットスーパーの利用等を挙げる回答が多く、「減った」では、外食や食事会を挙げる回答が多い。

図表 II-9 社会状況の変化による生活への影響



図表 II-10 社会状況の変化による生活への影響(増えた・減ったの比較)



「減った」の割合と「増えた」の割合を比較し、「増えた」の割合が高い項目を年齢別にみると、「電話やメール、テレビ電話などで連絡を取り合う回数」や「オンラインを利用した手続の回数」、「キャッシュレス決済を利用する回数」のほか、「在宅勤務の回数」や「家事をする時間」などが増えたとする割合は、50歳未満までの年代で比較的高い。一方、「うがい、手洗いなどの回数」や「災害に対する意識」などが増えたとする割合は、60歳代以上で比較的高い傾向がみられる。

男女別にみると、「災害に対する意識」「将来への不安感」「ストレス」や「家事をする時間」は、男性よりも女性の方で増えたとする割合が高い。

また、「減った」の割合と「増えた」の割合を比較し、「減った」の割合が高い項目を年齢別にみると、「公共交通機関を利用する回数」が減ったとする割合は60歳代以上で比較的高い。また、60歳代では、「外出する回数」や「仕事による収入」、「仕事をする時間」など、「増えた」よりも「減った」の割合が高い項目の数が、他の年代と比較して多くなっている。

図表 II-11 社会状況の変化による生活への影響（年齢別・男女別）

〔「減った」よりも「増えた」の割合が高い項目〕

(上段:実数、下段:%)

	調査数	電話やメール、テレビ電話などで取り合う回数	エアコンを使用する回数	プラスチック製品を使用する回数	オンラインを利用した手続の回数	キャッシュレス決済を利用する回数	うがい、手洗いなどの回数	災害に関する意識	将来への不安感	ストレス	仕事以外の余暇時間	自宅で過ごす時間	家事をする時間	在宅勤務の回数	
全体	1,102	322	726	196	660	698	917	613	616	702	234	793	429	241	
	100.0	29.2	65.9	17.8	59.9	63.3	83.2	55.6	55.9	63.7	21.2	72.0	38.9	21.9	
年齢別	18・19歳	22	12	16	9	20	12	17	13	13	6	13	4	4	
		100.0	54.5	72.7	40.9	90.9	54.5	77.3	54.5	59.1	59.1	27.3	59.1	18.2	
	20歳代	90	38	57	15	72	69	69	41	50	59	22	61	41	
		100.0	42.2	63.3	16.7	80.0	76.7	76.7	45.6	55.6	65.6	24.4	67.8	45.6	25.6
	30歳代	164	58	114	40	124	130	128	84	87	99	32	119	80	
		100.0	35.4	69.5	24.4	75.6	79.3	78.0	51.2	53.0	60.4	19.5	72.6	48.8	31.7
	40歳代	221	64	154	44	155	150	185	110	126	142	47	166	102	
		100.0	29.0	69.7	19.9	70.1	67.9	83.7	49.8	57.0	64.3	21.3	75.1	46.2	27.6
	50歳代	235	59	147	37	147	162	196	137	128	154	44	167	83	
	100.0	25.1	62.6	15.7	62.6	68.9	83.4	58.3	54.5	65.5	18.7	71.1	35.3	27.2	
60歳代	153	35	100	22	78	99	138	94	95	100	43	121	57		
	100.0	22.9	65.4	14.4	57.0	64.7	90.2	61.4	62.1	65.4	28.1	79.1	37.3	17.0	
70歳代	167	44	109	22	56	64	145	104	91	107	31	114	50		
	100.0	26.3	65.3	13.2	33.5	38.3	86.8	62.3	54.5	64.1	18.6	68.3	29.9	5.4	
80歳以上	46	10	27	7	6	9	37	27	24	27	9	30	11		
	100.0	21.7	58.7	15.2	13.0	19.6	80.4	58.7	52.2	58.7	19.6	65.2	23.9	0.0	
性別	女性	613	178	413	112	358	399	515	371	379	436	121	453	267	
		100.0	29.0	67.4	18.3	58.4	65.1	84.0	60.5	61.8	71.1	19.7	73.9	43.6	15.5
男性	484	143	310	83	298	295	399	240	234	263	111	338	160		
	100.0	29.5	64.0	17.1	61.6	61.0	82.4	49.6	48.3	54.3	22.9	69.8	33.7	29.5	

(注) クロス集計表の網掛け等は、以下のとおり設定している。(以下同様)

- ・「全体」よりも10ポイント以上構成比が高い項目は**白抜き**
- ・「全体」よりも5ポイント以上構成比が高い項目は**灰色塗りつぶし**
- ・「全体」よりも5ポイント以上構成比が低い項目は**斜体字に下線**
- ・「全体」よりも10ポイント以上構成比が低い項目は**太字に下線**

【「増えた」よりも「減った」の割合が高い項目】

(上段:実数、下段:%)

	調査数	外出する回数	人と直接会う回数	旅行に行く回数	公園を利用する回数	公共交通機関を利用する回数	生活の充実感	仕事による収入	仕事をする時間	
全体	1,102	805.0	891	820	327	582	453	300	216	
	100.0	73.0	80.9	74.4	29.7	52.8	41.1	27.2	19.6	
年齢別	18・19歳	22	12	15	15	11	6	5	4	3
		100.0	54.5	68.2	68.2	50.0	27.3	22.7	18.2	13.6
	20歳代	90	56	65	54	17	31	38	21	11
		100.0	62.2	72.2	60.0	18.9	34.4	42.2	23.3	12.2
	30歳代	164	109	134	112	35	82	65	40	29
		100.0	66.5	81.7	68.3	21.3	50.0	39.6	24.4	17.7
	40歳代	221	162	182	167	78	116	96	64	42
		100.0	73.3	82.4	75.6	35.3	52.5	43.4	29.0	19.0
	50歳代	235	175	193	180	75	116	101	73	54
		100.0	74.5	82.1	76.6	31.9	49.4	43.0	31.1	23.0
60歳代	153	128	129	120	48	98	61	53	40	
	100.0	83.7	84.3	78.4	31.4	64.1	39.9	34.6	26.1	
70歳代	167	130	136	133	49	104	66	40	31	
	100.0	77.8	81.4	79.6	29.3	62.3	39.5	24.0	18.6	
80歳以上	46	31	34	35	13	27	19	4	5	
	100.0	67.4	73.9	76.1	28.3	58.7	41.3	8.7	10.9	
性別	女性	613	464	512	468	187	346	268	155	119
		100.0	75.7	83.5	76.3	30.5	56.4	43.7	25.3	19.4
	484	338	375	348	139	234	181	142	97	
	100.0	69.8	77.5	71.9	28.7	48.3	37.4	29.3	20.0	

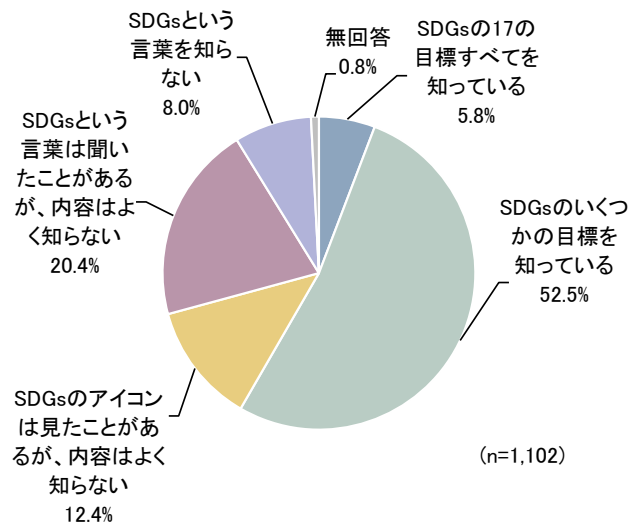
(3) SDGs について

ア SDGs についての認知度

SDGs についての認知状況を尋ねたところ、「SDGs の 17 の目標すべてを知っている」(5.8%)と「SDGs のいくつかの目標を知っている」(52.5%)を合わせて、SDGs の 17 の目標を知っている回答者は約 6 割である。

年齢別に見ると、50 歳代よりも若い年代では比較的認知度が高いものの、70 歳代以上では認知度が低いことがうかがえる。

図表 II-7 SDGs についての認知状況



図表 II-8 SDGs についての認知度(年齢別・男女別)

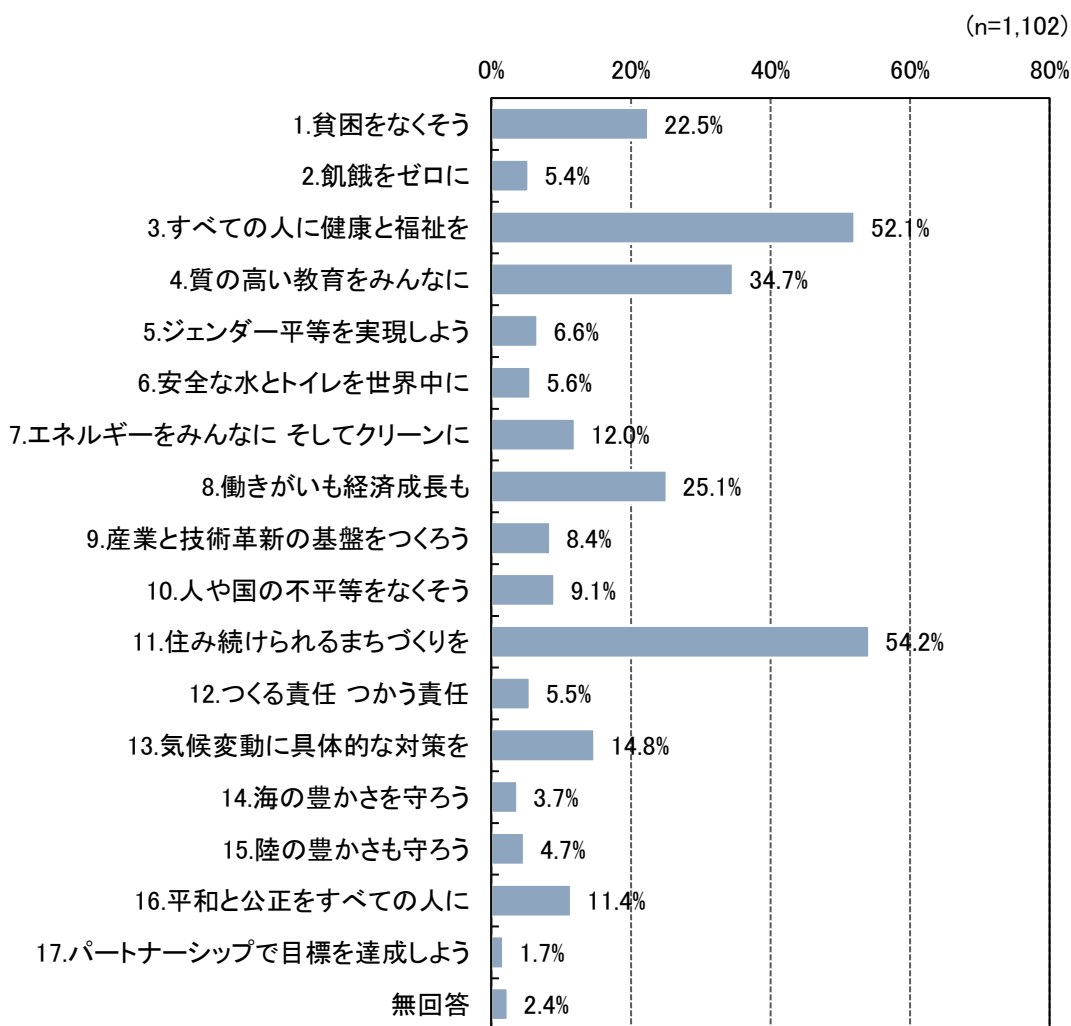
(上段:実数、下段:%)

	調査数	すべてを知ら	目標を知	内容はよく知	聞いたことがあ	知らないとい	
		っている	っている	っている	るが、内容はよく	う言葉	
全体	1,102	64	579	137	225	88	
	100.0	5.8	52.5	12.4	20.4	8.0	
年齢別	18・19歳	22	6	13	1	2	0
		100.0	27.3	59.1	4.5	9.1	0.0
	20歳代	90	7	40	24	15	4
		100.0	7.8	44.4	26.7	16.7	4.4
	30歳代	164	12	97	25	25	5
		100.0	7.3	59.1	15.2	15.2	3.0
	40歳代	221	17	115	35	39	15
		100.0	7.7	52.0	15.8	17.6	6.8
50歳代	235	8	145	25	42	13	
	100.0	3.4	61.7	10.6	17.9	5.5	
60歳代	153	10	86	13	29	12	
	100.0	6.5	56.2	8.5	19.0	7.8	
70歳代	167	3	72	9	55	25	
	100.0	1.8	43.1	5.4	32.9	15.0	
80歳以上	46	0	9	4	18	14	
	100.0	0.0	19.6	8.7	39.1	30.4	
性別	女性	613	24	320	86	122	53
		100.0	3.9	52.2	14.0	19.9	8.6
男性	484	40	256	51	101	35	
	100.0	8.3	52.9	10.5	20.9	7.2	

イ 吹田市が特に注力すべき SDGs のゴール

17 ある SDGs のゴールのうち、吹田市が特に注力すべきゴールについては、「11.住み続けられるまちづくりを」(54.2%)と「3.すべての人に健康と福祉を」(52.1%)を選択した回答者が約半数にのぼり、次に「4.質の高い教育をみんなに」(34.7%)、「8.働きがいも経済成長も」(25.1%)が続く。

図表 II-9 吹田市が特に注力すべき SDGs のゴール(複数回答)



年齢別に見ると、「11.住み続けられるまちづくりを」は、年齢が上昇するほど割合が高くなる傾向が見られ、「3.すべての人に健康と福祉を」は特に70歳以上の割合が高いほか、「1.貧困をなくそう」と「2.飢餓をゼロに」は80歳以上の割合が高い。また、「4.質の高い教育をみんなに」は40歳代以下の割合が高く、「8.働きがいも経済成長も」は30歳代・40歳代でやや割合が高くなっている。

図表 II-10 吹田市が特に注力すべき SDGs のゴール(複数回答/年齢別・男女別)

(上段:実数、下段:%)

	調査数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
		貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	クリーンエネルギーをみんなに	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	
全体	1,102	248	59	574	382	73	62	132	277	93	
	100.0	22.5	5.4	52.1	34.7	6.6	5.6	12.0	25.1	8.4	
年齢別	18・19歳	22	6	1	11	9	3	2	3	4	2
		100.0	27.3	4.5	50.0	40.9	13.6	9.1	13.6	18.2	9.1
	20歳代	90	17	3	42	33	9	7	14	26	8
		100.0	18.9	3.3	46.7	36.7	10.0	7.8	15.6	28.9	8.9
	30歳代	164	33	7	74	82	14	6	13	55	21
		100.0	20.1	4.3	45.7	50.0	8.5	3.7	7.9	33.5	12.8
	40歳代	221	46	6	100	94	7	11	29	67	17
		100.0	20.8	2.7	45.2	42.5	3.2	5.0	13.1	30.3	7.7
	50歳代	235	48	14	127	72	14	13	30	66	24
		100.0	20.4	6.0	54.0	30.6	6.0	5.5	12.8	28.1	10.2
60歳代	153	39	9	83	41	12	10	15	30	7	
	100.0	25.5	5.9	54.2	26.8	7.8	6.5	9.8	19.6	4.6	
70歳代	167	42	12	104	43	12	6	23	26	13	
	100.0	25.1	7.2	62.3	25.7	7.2	3.6	13.8	15.6	7.8	
80歳以上	46	16	7	31	7	1	7	4	3	1	
	100.0	34.8	15.2	67.4	15.2	2.2	15.2	8.7	6.5	2.2	
性別	女性	613	139	33	335	194	35	40	73	150	28
		100.0	22.7	5.4	54.6	31.6	5.7	6.5	11.9	24.5	4.6
	484	107	26	235	186	36	22	59	126	65	
	100.0	22.1	5.4	48.6	38.4	7.4	4.5	12.2	26.0	13.4	

(上段:実数、下段:%)

	調査数	10	11	12	13	14	15	16	17	
		人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任とつかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	平和と公正	パートナーシップによる目標達成	
全体	1,102	100	597	61	163	41	52	126	19	
	100.0	9.1	54.2	5.5	14.8	3.7	4.7	11.4	1.7	
年齢別	18・19歳	22	1	8	1	2	4	2	1	2
		100.0	4.5	36.4	4.5	9.1	18.2	9.1	4.5	9.1
	20歳代	90	10	43	3	11	1	6	8	3
		100.0	11.1	47.8	3.3	12.2	1.1	6.7	8.9	3.3
	30歳代	164	9	91	11	13	1	8	21	5
		100.0	5.5	55.5	6.7	7.9	0.6	4.9	12.8	3.0
	40歳代	221	23	126	9	29	13	11	24	6
		100.0	10.4	57.0	4.1	13.1	5.9	5.0	10.9	2.7
	50歳代	235	20	120	12	39	8	10	28	1
		100.0	8.5	51.1	5.1	16.6	3.4	4.3	11.9	0.4
60歳代	153	10	98	13	24	6	9	18	0	
	100.0	6.5	64.1	8.5	15.7	3.9	5.9	11.8	0.0	
70歳代	167	24	81	11	40	8	5	19	1	
	100.0	14.4	48.5	6.6	24.0	4.8	3.0	11.4	0.6	
80歳以上	46	3	28	1	5	0	1	6	1	
	100.0	6.5	60.9	2.2	10.9	0.0	2.2	13.0	2.2	
性別	女性	613	62	332	41	107	19	26	80	13
		100.0	10.1	54.2	6.7	17.5	3.1	4.2	13.1	2.1
	484	38	262	20	56	22	25	46	6	
	100.0	7.9	54.1	4.1	11.6	4.5	5.2	9.5	1.2	

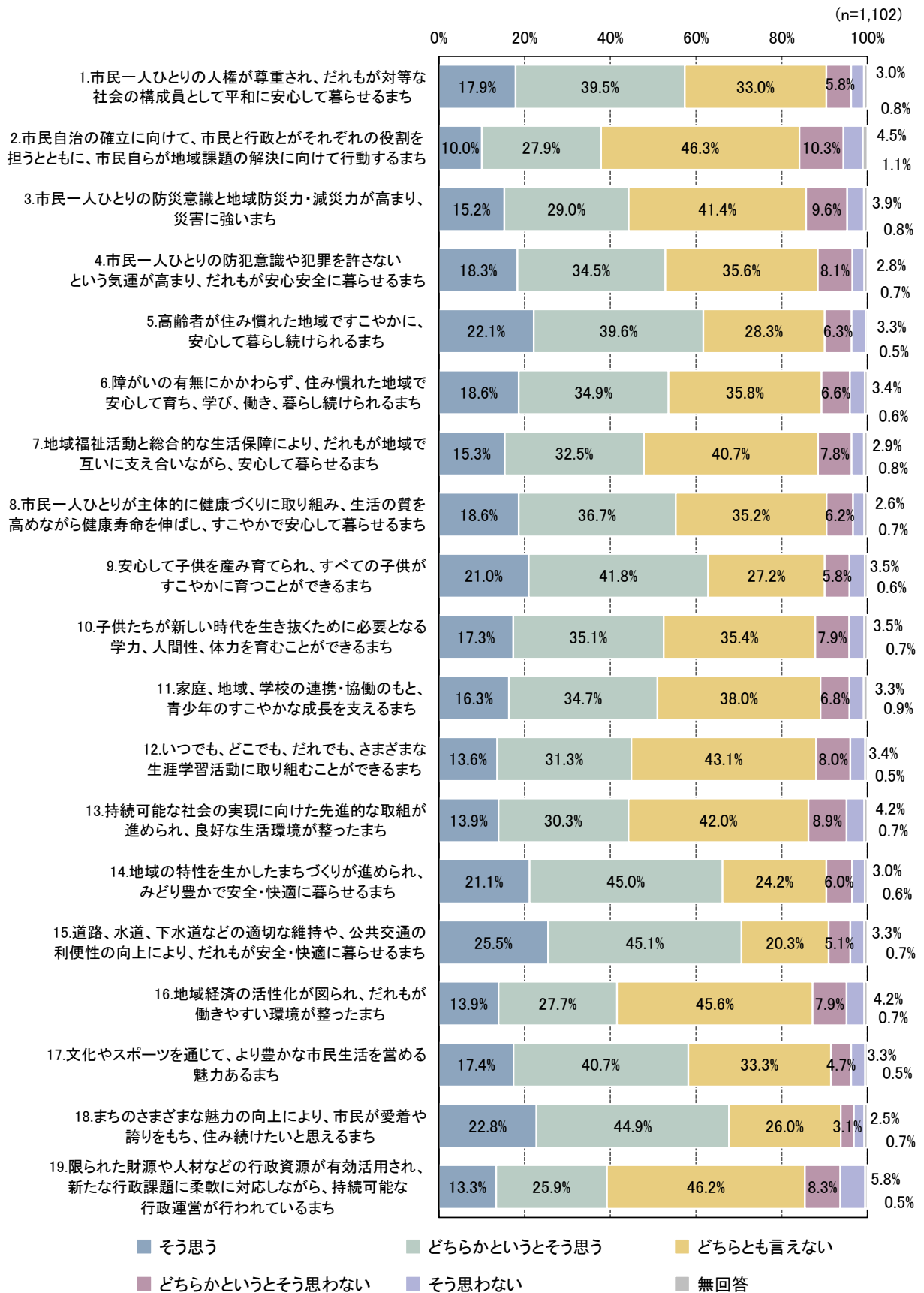
(4) 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度

総合計画の19のめざすまちの姿について、それぞれに近づいていると思うかを尋ねた。

「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計をみると、「15.道路、水道、下水道などの適切な維持や、公共交通の利便性の向上により、だれもが安全・快適に暮らせるまち」（70.6%）の割合が最も高く、次に「18.まちのさまざまな魅力の向上により、市民が愛着や誇りをもち、住み続けたいと思えるまち」（67.7%）、「14.地域の特性を生かしたまちづくりが進められ、みどり豊かで安全・快適に暮らせるまち」（66.2%）が続く。

一方で、「そう思う」と「どちらかというと思う」の割合が低いものは、「19.限られた財源や人材などの行政資源が有効活用され、新たな行政課題に柔軟に対応しながら、持続可能な行政運営が行われているまち」（39.2%）、「2.市民自治の確立に向けて、市民と行政とがそれぞれの役割を担うとともに、市民自らが地域課題の解決に向けて行動するまち」（37.8%）である。

図表 II-11 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度(市民アンケート)



「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計を年齢別に見ると、いずれもサンプル数は少ないが、18・19歳と80歳以上で、総じて割合が高い。また、20歳代では、「7.地域福祉活動と総合的な生活保障により、だれもが地域で互いに支え合いながら、安心して暮らせるまち」や「11.家庭、地域、学校の連携・協働のもと、青少年のすこやかな成長を指せるまち」、「13.持続可能な社会の実現に向けた先進的な取組が進められ、良好な生活環境が整ったまち」、「16.地域経済の活性化が図られ、だれもが働きやすい環境が整ったまち」の割合が、全体を10ポイント上回っている。

また、18歳未満の子供と同居している回答者では、「9.安心して子供を産み育てられ、すべての子供がすこやかに育つことができるまち」、「11.家庭、地域、学校の連携・協働のもと、青少年のすこやかな成長を支えるまち」、「14.地域の特性を生かしたまちづくりが進められ、みどり豊かで安全・快適に暮らせるまち」など、子育て環境としてのメリットに関連する項目の割合が、全体よりもやや高くなっている。

図表 II-12 総合計画の19のめざすまちの姿に対する評価（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計/年齢別・男女別・18歳未満の子供との同居の有無別）

		(上段:実数、下段:%)							
	調査数	1 ちとれ市 し、民 てだ一 平れ人 和もひ にがと 安対り 心等の して社 暮らの 尊会が せ構重 る成さ ま員	2 決と行市 にも政民 向にと自 け、が治 て市その 行民れ確 動自ぞ立 するがの るが地向 ち地域割 課を、 題担市 のう民 解と	3 強防市 い災民 まカー ち・人 減ひ 災と 力の が防 ま災 り意 ・識 災と 害地 に域	4 だを市 れ許民 もさ一 がな人 安いひ 心とと 安いり 全うの に気防 暮運犯 らが高 せ高識 るまや まり犯 ち、罪	5 まか高 ちに齡 、者 安が住 心しみ て慣れ 暮らた し地域 続けで らすこ るや	6 び慣障 、れが 働たい き地の 、域有 、暮で無 ら安にか し心か 続してわ けられ育 るち、 ま学、 ち住 み	7 まえに地 ち合よ域 り福 な、社 だ活 られ動 、もと 安が地 心地合 して域的 てでな 暮互生 らいい せに保 る支障	
全体	1,102	632	417	488	582	680	590	527	
	100.0	57.4	37.8	44.3	52.8	61.7	53.5	47.8	
年齢別	18・19歳	22	18	11	15	15	17	18	
		100.0	81.8	50.0	68.2	68.2	77.3	81.8	81.8
	20歳代	90	54	36	34	56	62	49	
		100.0	60.0	40.0	37.8	62.2	68.9	54.4	58.9
	30歳代	164	100	55	70	85	97	79	
		100.0	61.0	33.5	42.7	51.8	59.1	48.2	45.1
	40歳代	221	118	81	89	103	136	113	
		100.0	53.4	36.7	40.3	46.6	61.5	51.1	42.5
	50歳代	235	124	84	99	120	135	123	
		100.0	52.8	35.7	42.1	51.1	57.4	52.3	46.0
60歳代	153	94	57	71	77	94	82		
	100.0	61.4	37.3	46.4	50.3	61.4	53.6	41.2	
70歳代	167	95	73	84	96	103	94		
	100.0	56.9	43.7	50.3	57.5	61.7	56.3	51.5	
80歳以上	46	27	19	24	28	33	30		
	100.0	58.7	41.3	52.2	60.9	71.7	65.2	63.0	
性別	女性	613	363	239	253	322	375	333	
		100.0	59.2	39.0	41.3	52.5	61.2	54.3	48.6
	484	268	178	235	260	304	256		
	100.0	55.4	36.8	48.6	53.7	62.8	52.9	46.9	
同居家族	18歳未満の子供が いる	309	184	119	133	159	203	165	
		100.0	59.5	38.5	43.0	51.5	65.7	53.4	47.9
	791	447	298	354	422	475	424		
	100.0	56.5	37.7	44.8	53.4	60.1	53.6	47.8	

(上段:実数、下段:%)

		調査数	8 市民一人ひとりが安心して暮らすための健康寿命を伸ばすこと	9 安心して子育てができる環境を整ったまち	10 子供たちが新しい時代を生き抜くために必要となる学力、人間性、体力を育むことができるまち	11 家庭、地域、学校の連携・協働を支えるまち	12 いつでも、どこでも、だれでも、さまざまな生涯学習活動に取り組むことができるまち	13 持続可能な社会の実現に向けた先進的な取り組みが実現したまち
全体		1,102 100.0	609 55.3	692 62.8	578 52.5	562 51.0	495 44.9	487 44.2
年齢別	18・19歳	22 100.0	18 81.8	18 81.8	15 68.2	15 68.2	14 63.6	14 63.6
	20歳代	90 100.0	55 61.1	56 62.2	53 58.9	56 62.2	43 47.8	49 54.4
	30歳代	164 100.0	84 51.2	106 64.6	75 45.7	80 48.8	68 41.5	72 43.9
	40歳代	221 100.0	110 49.8	146 66.1	114 51.6	109 49.3	92 41.6	85 38.5
	50歳代	235 100.0	137 58.3	147 62.6	126 53.6	118 50.2	105 44.7	97 41.3
	60歳代	153 100.0	78 51.0	89 58.2	81 52.9	79 51.6	71 46.4	72 47.1
	70歳代	167 100.0	94 56.3	94 56.3	84 50.3	81 48.5	72 43.1	74 44.3
	80歳以上	46 100.0	30 65.2	35 76.1	29 63.0	24 52.2	30 65.2	24 52.2
性別	女性	613 100.0	337 55.0	387 63.1	312 50.9	316 51.5	278 45.4	265 43.2
	男性	484 100.0	271 56.0	305 63.0	266 55.0	246 50.8	217 44.8	222 45.9
同居家族	18歳未満の子供がいる	309 100.0	174 56.3	217 70.2	167 54.0	177 57.3	138 44.7	145 46.9
	18歳未満の子供がいない	791 100.0	433 54.7	475 60.1	411 52.0	385 48.7	357 45.1	342 43.2

(上段:実数、下段:%)

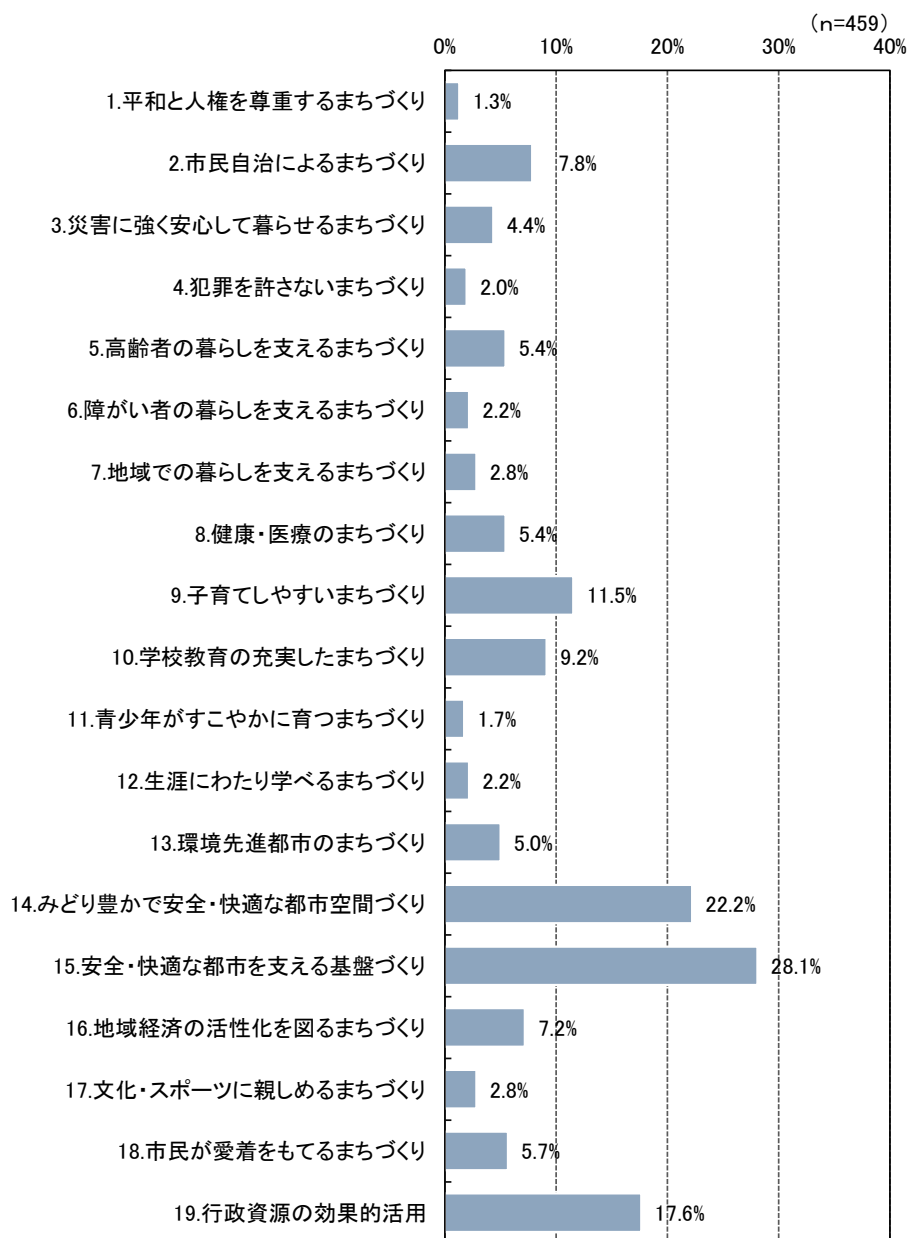
		調査数	14 地域の特性を生かしたまちづくり が進められ、みどり豊かで安全・ 快適に暮らせるまち	15 道路、水道、下水道などの適切な 維持や、公道の安全・快適に暮 らせるまち	16 地域経済の活性化が図られ、だ れも働きやすい環境が整ったま ち	17 文化やスポーツを通じて、よりま ちなみ市民生活を営める魅力あ るまち	18 まちのさまざまな魅力の向上によ り、市民が愛着や誇りを持ち、住 み続けたいと思えるまち	19 限られた財源や人材などの行政課 題に効果的に対応し、新たな行政 施策の活用が図られ、持続可能 な行政運営が行われているまち
全体		1,102 100.0	729 66.2	778 70.6	458 41.6	641 58.2	746 67.7	432 39.2
年齢別	18・19歳	22 100.0	15 68.2	19 86.4	13 59.1	16 72.7	17 77.3	8 36.4
	20歳代	90 100.0	63 70.0	68 75.6	48 53.3	58 64.4	63 70.0	43 47.8
	30歳代	164 100.0	113 68.9	111 67.7	63 38.4	90 54.9	107 65.2	52 37.7
	40歳代	221 100.0	147 66.5	156 70.6	85 38.5	119 53.8	142 64.3	80 36.2
	50歳代	235 100.0	163 69.4	169 71.9	100 42.6	143 60.9	161 68.5	93 39.6
	60歳代	153 100.0	92 60.7	105 68.6	56 36.6	84 54.9	113 73.9	59 38.6
	70歳代	167 100.0	101 60.5	114 68.3	70 41.9	96 57.5	107 64.1	72 43.1
	80歳以上	46 100.0	33 71.7	33 71.7	22 47.8	32 69.6	34 73.9	25 54.3
性別	女性	613 100.0	426 69.5	427 69.7	252 41.1	351 57.3	436 71.1	243 39.6
	男性	484 100.0	302 62.4	349 72.1	206 42.6	289 59.7	310 64.0	189 39.0
同居家族	18歳未満の子供が いる	309 100.0	226 73.1	224 72.5	134 43.4	183 59.2	220 71.2	124 40.1
	18歳未満の子供が いない	791 100.0	501 63.3	552 69.8	324 41.0	456 57.6	525 66.4	308 38.9

(5) 吹田市のまちづくりに対する意見

吹田市のまちづくりに対する意見（自由記述）を尋ねたところ、現行総合計画の施策体系に分類可能な意見は459件であった。

政策単位の内訳をみると、「15.安全・快適な都市を支える基盤づくり」に関する意見の割合（28.1%）が最も高く、次に「14.みどり豊かで安全・快適な都市空間づくり」（22.2%）、「19.行政資源の効果的活用」（17.6%）に関する意見の割合が高い。

図表 II-13 まちづくりに対する意見の政策別分類結果（複数回答）



（注）1つの意見に複数の政策に関連する内容が含まれる場合は、それぞれの政策に1件ずつ計上している。

III. 商業施設アンケート

1. 調査概要

(1) 調査の目的

吹田市のまちづくりに関する市民アンケート（無作為抽出アンケート）では声が拾いにくい世代（主に20～40代）からの意見把握を目的に、商業施設に出向いてアンケートを実施した。

(2) 調査日・場所

- ア 令和4年（2022年）10月25日（火） 13時～19時 イオン吹田店
- イ 令和4年（2022年）11月11日（金） 13時～19時 イオン北千里店
- ウ 令和4年（2022年）11月23日（水・祝） 10時～17時 ららぽーとEXPOCITY

(3) 調査方法

- ア パネルとシールを用い、SDGsで重視するゴールの調査を行った。
- イ タブレットパソコンを用い、総合計画のめざすまちの姿に対する到達度の調査を行った。

(4) 調査対象

商業施設来場者

(5) 調査項目

- ア あなたがSDGsで重視するゴール（パネルアンケート）
- イ 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度（タブレットアンケート）

(6) 回答結果

パネルアンケート522件、タブレットアンケート269件

図表 III-1 パネルアンケート(左)、タブレットアンケート(右)のイメージ

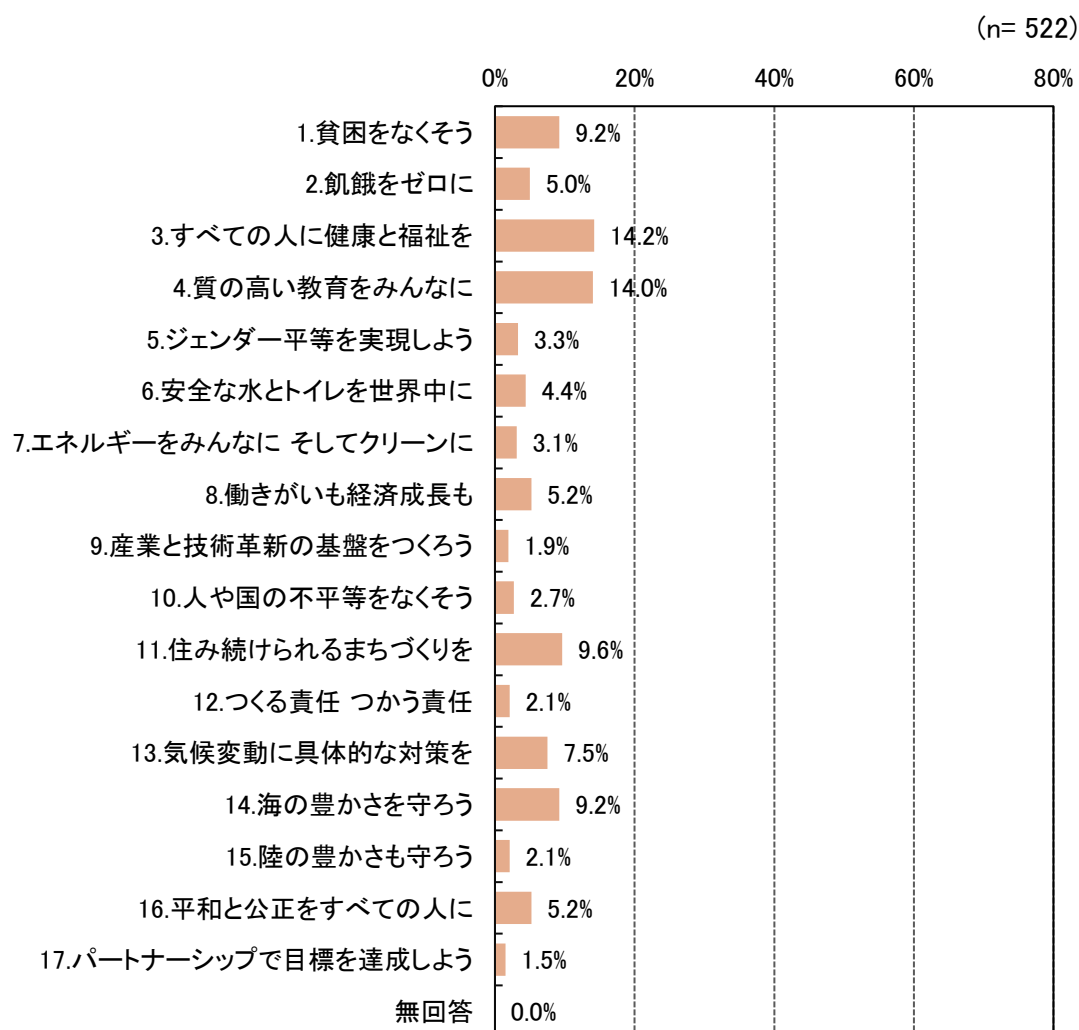


2. 調査結果

(1) あなたが SDGs で重視するゴール (パネルアンケート)

「あなたが重視する SDGs のゴール」について、吹田市のまちづくりに関する市民アンケートと比較し、「4.質の高い教育をみんなに」、「13.気候変動に具体的な対策を」、「14.海の豊かさを守ろう」を重視する回答者が多かった。

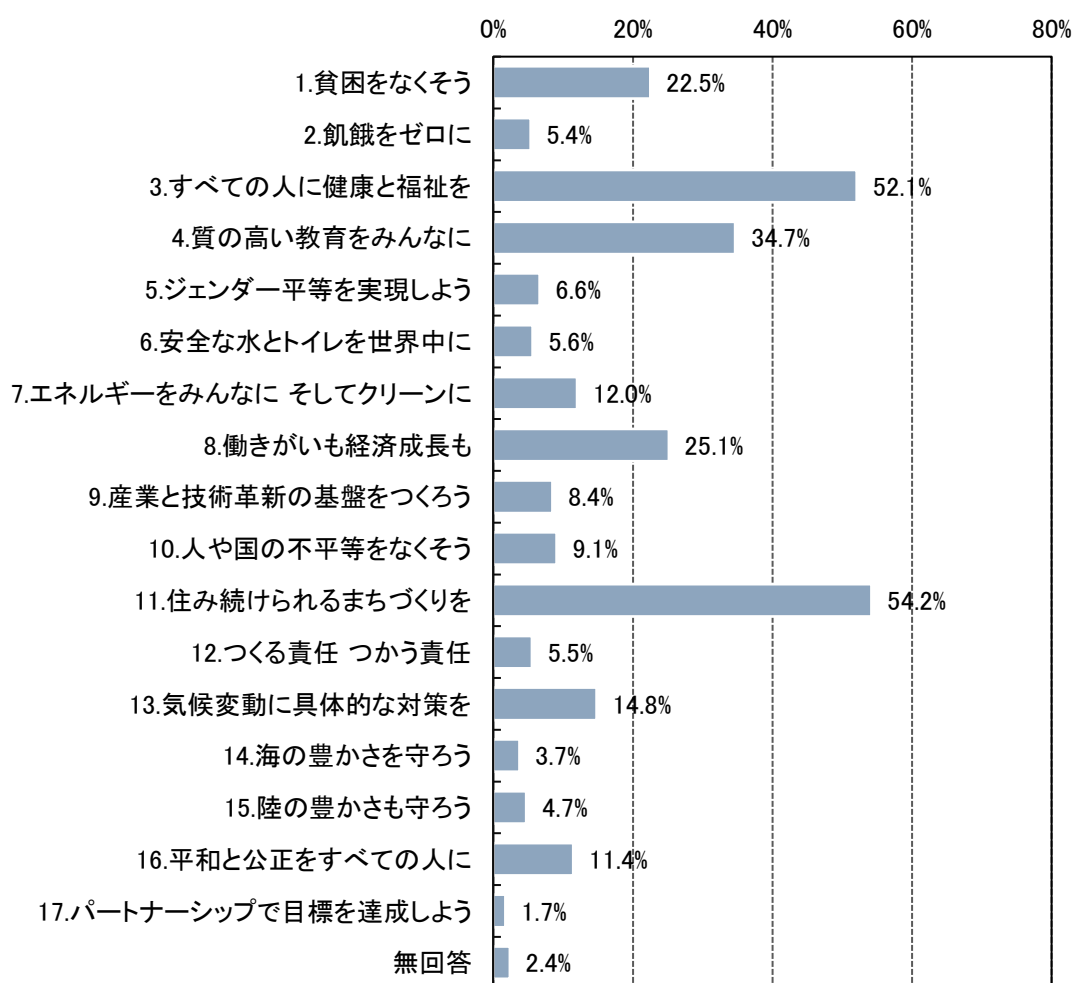
図表 III-2 あなたが SDGs で重視するゴール(パネルアンケート)の結果



※ 1人1枚シールを貼っているため、市民アンケートの「3つまで選択」とは割合が異なり、単純な数値での比較はできない。

参考:吹田市のまちづくりに関する市民アンケート(3つまで回答)

(n=1,102)



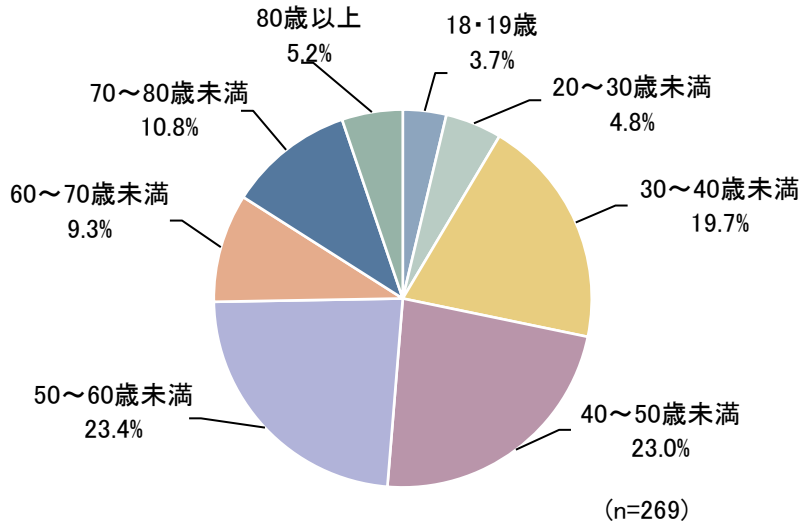
(2) 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度（タブレットアンケート）

ア 回答者の属性

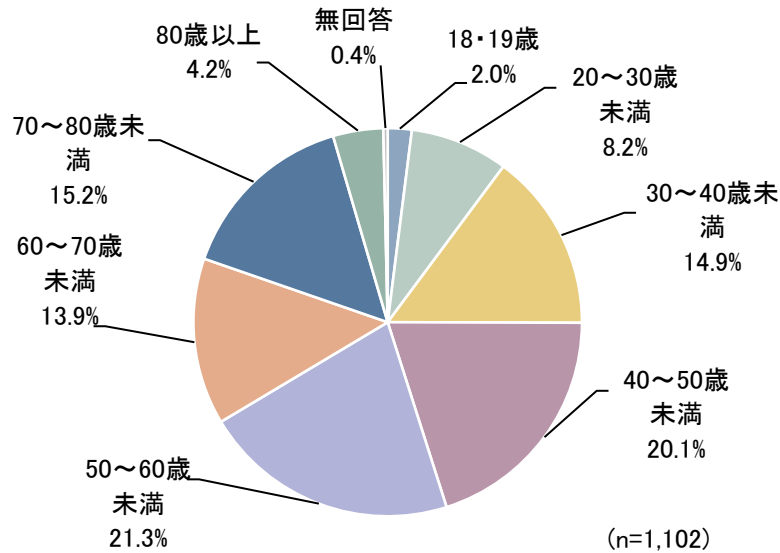
(ア) 年齢

吹田市のまちづくりに関する市民アンケートと比較して、タブレットアンケートでは、30～40歳未満の割合が若干高くなっている（タブレットアンケート：19.7%、吹田市のまちづくりに関する市民アンケート：14.9%）。

図表 III-3 タブレットアンケート回答者の年齢割合



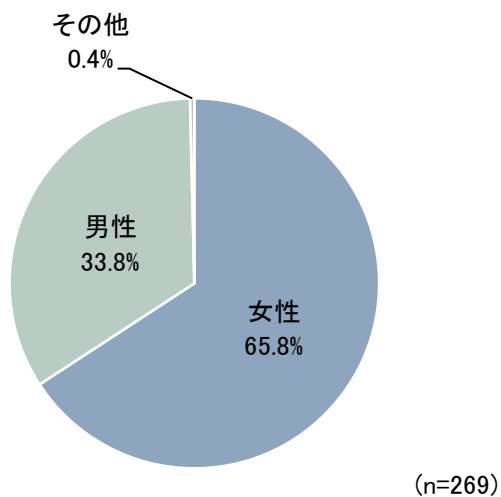
参考：吹田市のまちづくりに関する市民アンケート



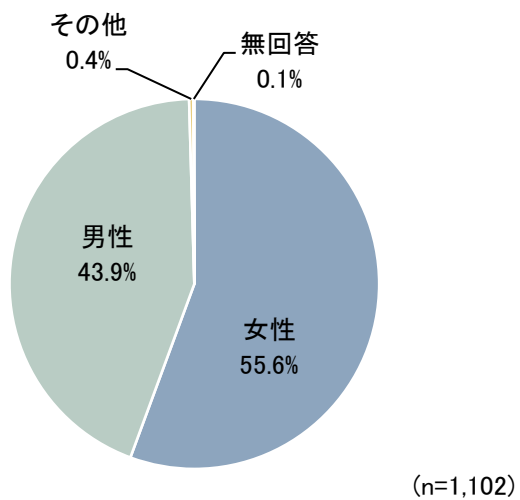
(イ) 性別

回答者の性別で見ると、「女性」(65.8%)の方が、「男性」(33.8%)よりも回答割合が多い。吹田市のまちづくりに関する市民アンケートと比較しても女性の割合が高くなっている。

図表 III-4 タブレットアンケート回答者の性別割合



参考:吹田市のまちづくりに関する市民アンケート

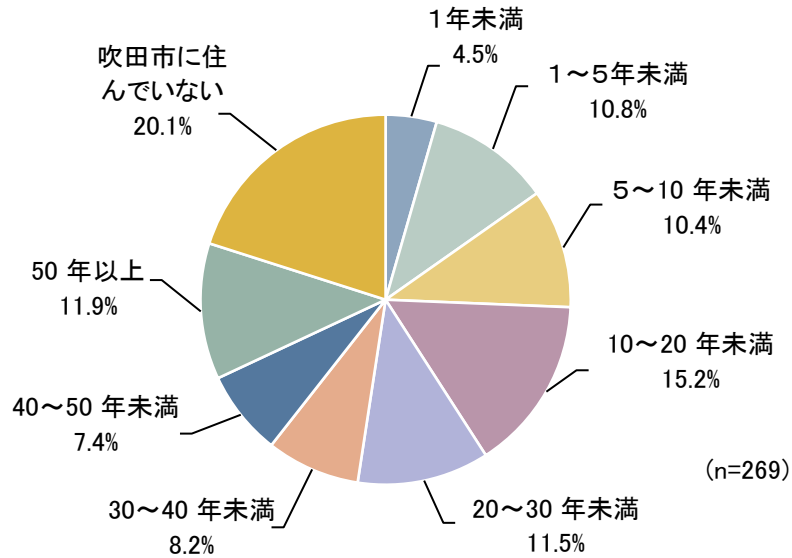


(ウ) 吹田市での居住年数

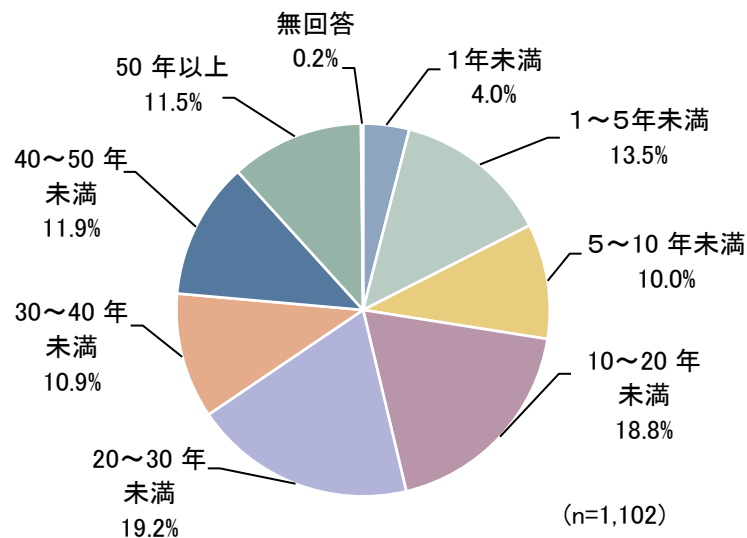
回答者の吹田市での居住年数は、「10～20年未満」（15.2%）の割合が最も高く、次に「50年以上」（11.9%）、「20～30年未満」（11.5%）が続く。

吹田市のまちづくりに関する市民アンケートと比較すると、約2割が吹田市に住んでいない市外在住者であるため、「20～30年未満」、「40～50年未満」などを始めとした市内在住者の割合が低くなっている。

図表 III-5 タブレットアンケート回答者の居住年数割合



参考：吹田市のまちづくりに関する市民アンケート



イ 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度

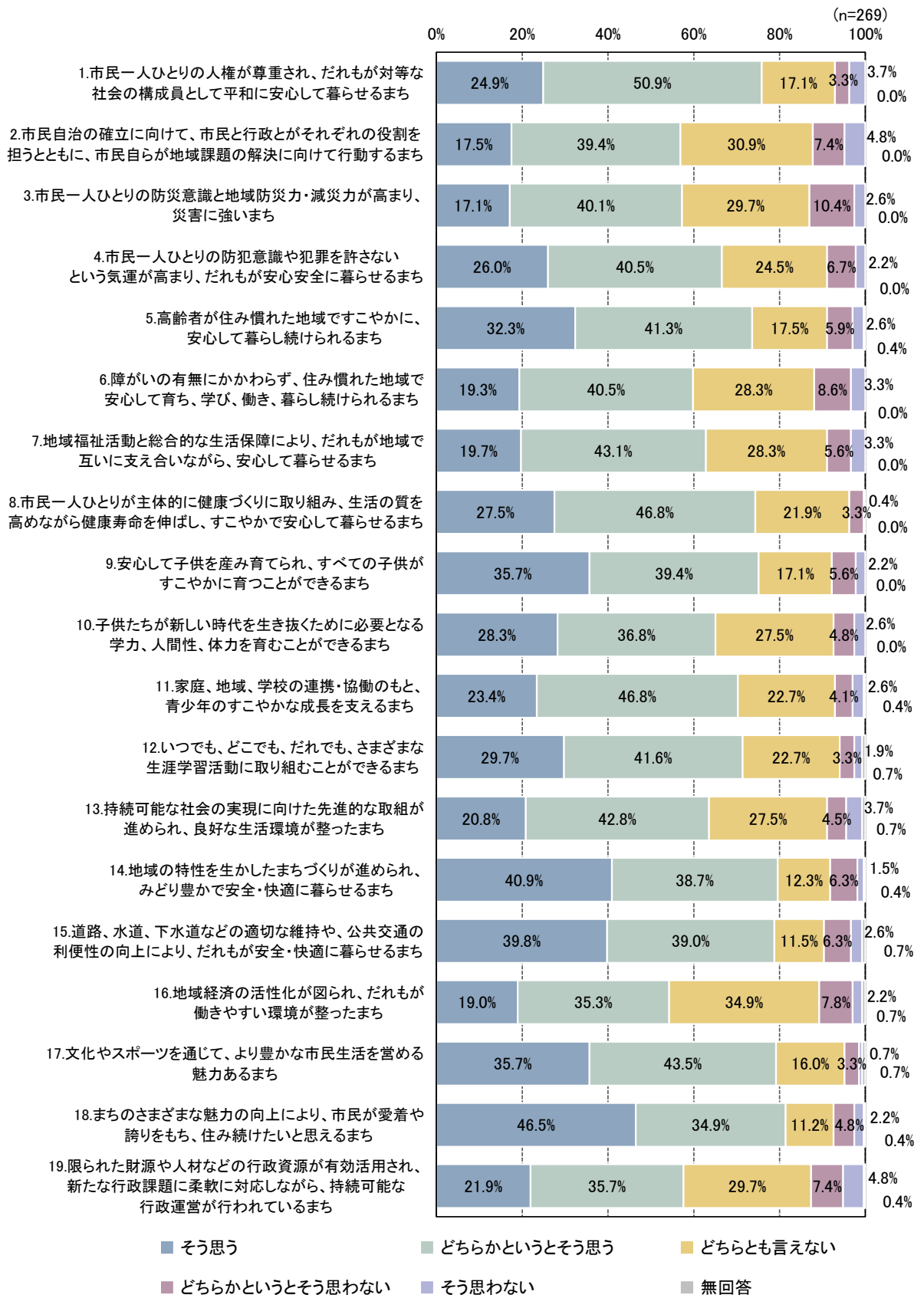
(ア) 単純集計による分析

総合計画の19のめざすまちの姿について、それぞれに近づいていると思うかを尋ねた。

「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計をみると、「18.まちのさまざまな魅力の向上により、市民が愛着や誇りをもち、住み続けたいと思えるまち」（81.4%）の割合が最も高く、次に「14.地域の特性を生かしたまちづくりが進められ、みどり豊かで安全・快適に暮らせるまち」（79.6%）、「17.文化やスポーツを通じて、より豊かな市民生活を営める魅力あるまち」（79.2%）が続く。

一方で、「そう思う」と「どちらかというと思う」の割合が低いものは、「2.市民自治の確立に向けて、市民と行政とがそれぞれの役割を担うとともに、市民自らが地域課題の解決に向けて行動するまち」（56.9%）、「16.地域経済の活性化が図られ、だれもが働きやすい環境が整ったまち」（54.3%）である。

図表 III-6 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度(タブレットアンケート)

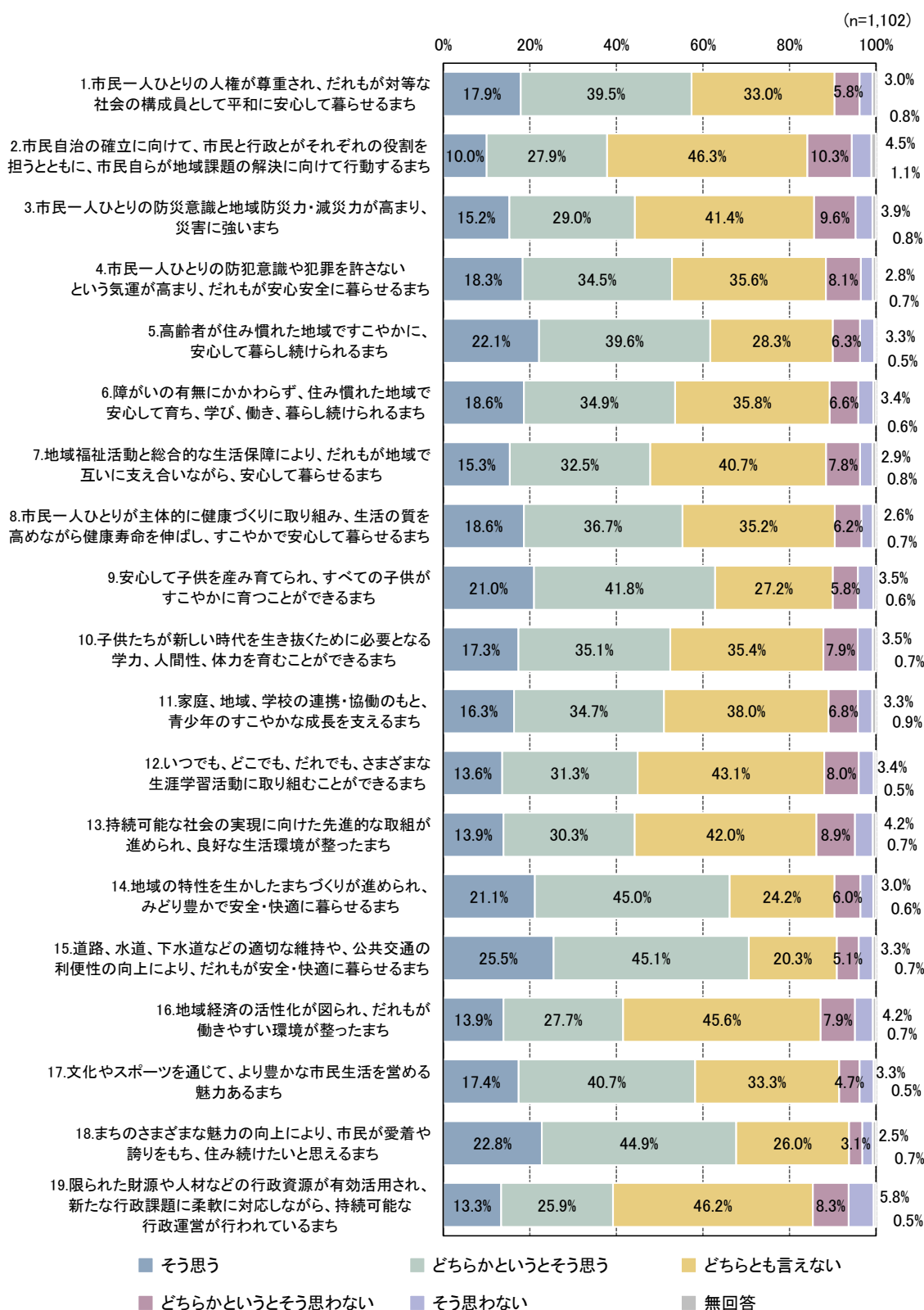


(イ) 吹田市のまちづくりに関する市民アンケートとの比較

「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計を見ると、全ての設問について、吹田市のまちづくりに関する市民アンケートより割合が高い傾向が見られた。そのうち、市民アンケートとの差が大きかった項目は、「12.いつでも、どこでも、だれでも、さまざまな生涯学習活動に取り組むことができるまち」(26.4 ポイント)、「17.文化・スポーツを通じて、より豊かな市民生活を営める魅力あるまち」(21.0 ポイント) だった。

一方、評価の乖離が小さかったのは、「6.障がいの有無にかかわらず、住み慣れた地域で安心して育ち、学び、働き、暮らし続けられるまち」(6.3 ポイント)、「15.道路、水道、下水道などの適切な維持や、公共交通の利便性の向上により、だれもが安全・快適に暮らせるまち」(8.2 ポイント) であり、2つのアンケートにおいて同じような評価であった。

参考: 吹田市のまちづくりに関する市民アンケート



(ウ) クロス集計による分析（年代別）

総合計画の 19 のめざすまちの姿の到達度について「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計を年代別に分析した。年齢区分と人数・割合については以下のとおり。

図表 III-7 年齢区分の統合と人数・割合について

年齢	人数（人）	割合（%）	年齢 （統合）	人数（人） （統合）	割合（%） （統合）
18-19 歳	10	3.7	10 歳代	23	8.6
20-29 歳	13	4.8	20 歳代		
30-39 歳	53	19.7	30 歳代	53	19.7
40-49 歳	62	23.0	40 歳代	62	23.0
50-59 歳	63	23.4	50 歳代	63	23.4
60-69 歳	25	9.3	60 歳代以上	68	25.3
70-79 歳	29	10.8			
80 歳以上	14	5.2			




























総合計画の 19 のめざすまちの姿の到達度について、「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計を年代別に、特に若い世代（10 歳代～40 歳代）について着目する。































10～20 歳代で他の世代と比較して評価が高い項目は「5.高齢者が住み慣れた地域ですこやかに、安心して暮らし続けられるまち」「9.安心して子供を産み育てられ、すべての子供がすこやかに育つことができるまち」であるのに対して、評価が低い項目は「17.文化やスポーツを通じて、より豊かな市民生活を営める魅力あるまち」であった。




































30 代で他の世代と比較して評価が高い項目は「11.家庭、地域、学校の連携・協働のもと、青少年のすこやかな成長を支えるまち」「14.地域の特性を生かしたまちづくりが進められ、みどり豊かで安全・快適に暮らせるまち」「15.道路、水道、下水道などの適切な維持や、公共交通の利便性の向上により、だれもが安全・快適に暮らせるまち」「17.文化やスポーツを通じて、より豊かな市民生活を営める魅力あるまち」「18.まちのさまざまな魅力の向上により、市民が愛着や誇りをもち、住み続けたいと思えるまち」であった（評価が低い項目は特になし）。

40 歳代で他の世代と比較して評価が高い項目は「10.子供たちが新しい時代を生き抜くために必要となる学力、人間性、体力を育むことができるまち」であった。

図表 III-8 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度
 (「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計年代別)

1.市民一人ひとりの人権が尊重され、だれもが対等な社会の構成員として平和に安心して暮らせるまち	10歳代・20歳代		78.3
	30歳代		81.1
	40歳代		77.0
	50歳代		71.9
	60歳代以上		73.5
2.市民自治の確立に向けて、市民と行政とがそれぞれの役割を担うとともに、市民自らが地域課題の解決に向けて行動するまち	10歳代・20歳代		56.5
	30歳代		62.3
	40歳代		57.4
	50歳代		57.8
	60歳代以上		51.5
3.市民一人ひとりの防災意識と地域防災力・減災力が高まり、災害に強いまち	10歳代・20歳代		60.9
	30歳代		56.6
	40歳代		60.7
	50歳代		60.9
	60歳代以上		50.0
4.市民一人ひとりの防犯意識や犯罪を許さないという気運が高まり、だれもが安心安全に暮らせるまち	10歳代・20歳代		69.6
	30歳代		71.7
	40歳代		65.6
	50歳代		62.5
	60歳代以上		66.2
5.高齢者が住み慣れた地域ですこやかに、安心して暮らし続けられるまち	10歳代・20歳代		91.3
	30歳代		81.1
	40歳代		72.1
	50歳代		62.5
	60歳代以上		73.5
6.障がいの有無にかかわらず、住み慣れた地域で安心して育ち、学び、働き、暮らし続けられるまち	10歳代・20歳代		60.9
	30歳代		69.8
	40歳代		67.2
	50歳代		53.1
	60歳代以上		51.5

7.地域福祉活動と総合的な生活保障により、だれもが地域で互いに支え合いながら、安心して暮らせるまち	10歳代・20歳代		69.6
	30歳代		66.0
	40歳代		65.6
	50歳代		62.5
	60歳代以上		55.9
8.市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組み、生活の質を高めながら健康寿命を伸ばし、すこやかに安心して暮らせるまち	10歳代・20歳代		69.6
	30歳代		79.2
	40歳代		63.9
	50歳代		73.4
	60歳代以上		82.4
9.安心して子供を産み育てられ、すべての子供がすこやかに育つことができるまち	10歳代・20歳代		87.0
	30歳代		83.0
	40歳代		75.4
	50歳代		68.8
	60歳代以上		48.0
10.子供たちが新しい時代を生き抜くために必要となる学力、人間性、体力を育むことができるまち	10歳代・20歳代		78.3
	30歳代		67.9
	40歳代		77.0
	50歳代		62.5
	60歳代以上		50.0
11.家庭、地域、学校の連携・協働のもと、青少年のすこやかな成長を支えるまち	10歳代・20歳代		60.9
	30歳代		79.2
	40歳代		75.4
	50歳代		68.8
	60歳代以上		63.2
12.いつでも、どこでも、だれでも、さまざまな生涯学習活動に取り組むことができるまち	10歳代・20歳代		78.3
	30歳代		71.7
	40歳代		62.3
	50歳代		68.8
	60歳代以上		79.4

13.持続可能な社会の実現に向けた先進的な取組が進められ、良好な生活環境が整ったまち	10歳代・20歳代		69.6
	30歳代		69.8
	40歳代		65.6
	50歳代		59.4
	60歳代以上		58.8
14.地域の特性を生かしたまちづくりが進められ、みどり豊かで安全・快適に暮らせるまち	10歳代・20歳代		82.6
	30歳代		90.6
	40歳代		82.0
	50歳代		71.9
	60歳代以上		75.0
15.道路、水道、下水道などの適切な維持や、公共交通の利便性の向上により、だれもが安全・快適に暮らせるまち	10歳代・20歳代		82.6
	30歳代		88.7
	40歳代		82.0
	50歳代		75.0
	60歳代以上		70.6
16.地域経済の活性化が図られ、だれもが働きやすい環境が整ったまち	10歳代・20歳代		65.2
	30歳代		69.8
	40歳代		63.9
	50歳代		51.6
	60歳代以上		32.4
17.文化やスポーツを通じて、より豊かな市民生活を営める魅力あるまち	10歳代・20歳代		69.6
	30歳代		88.7
	40歳代		83.6
	50歳代		73.4
	60歳代以上		76.5
18.まちのさまざまな魅力の向上により、市民が愛着や誇りをもち、住み続けたいと思えるまち	10歳代・20歳代		78.3
	30歳代		88.7
	40歳代		78.7
	50歳代		81.3
	60歳代以上		79.4
19.限られた財源や人材などの行政資源が有効活用され、新たな行政課題に柔軟に対応しながら、持続可能な行政運営が行われているまち	10歳代・20歳代		56.5
	30歳代		66.0
	40歳代		57.4
	50歳代		60.9
	60歳代以上		48.5

(エ) クロス集計による分析（居住地別）

居住地別の分析においては、傾向を見るため、サンプルを下記のとおり統合した。

図表 III-9 居住区分の統合と人数・割合について

居住年数	人数（人）	割合（％）	居住年数 （統合）	人数（人） （統合）	割合（％） （統合）
1年未満	12	4.5	吹田市に 住んでいる	215	79.9
1-5年未満	29	10.8			
5-10年未満	28	10.4			
10-20年未満	41	15.2			
20-30年未満	31	11.5			
30-40年未満	22	8.2			
40-50年未満	20	7.4			
50年以上	32	11.3			
吹田市に 住んでいない	54	20.1	吹田市に 住んでいない	54	20.1

総合計画の 19 のめざすまちの姿の到達度における「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計について、吹田市に住んでいるか、住んでいないかで生じる評価の「ギャップ」に着目した。

全体的に市外からの評価が市民の評価よりも高い傾向にあり、最もギャップがあるのは「16.地域経済の活性化が図られ、だれもが働きやすい環境が整ったまち」（24.8 ポイント）、次いで「19.限られた財源や人材などの行政資源が有効活用され、新たな行政課題に柔軟に対応しながら、持続可能な行政運営が行われているまち」（20.6 ポイント）、「10.子供たちが新しい時代を生き抜くために必要となる学力、人間性、体力を育むことができるまち」（18.2 ポイント）と続く（図表 III-10 実線の枠）。

一方、市外からの評価と市民の評価がほぼ変わらない項目は「1.市民一人ひとりの人権が尊重され、だれもが対等な社会の構成員として平和に安心して暮らせるまち」「8.市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組み、生活の質を高めながら健康寿命を伸ばし、すこやかに安心して暮らせるまち」「18.まちのさまざまな魅力の向上により、市民が愛着や誇りをもち、住み続けたいと思えるまち」などであった（図表 III-10 点線の枠）。

図表 III-10 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度
 (「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計居住状況別)

		(%)
1.市民一人ひとりの人権が尊重され、だれもが対等な社会の構成員として平和に安心して暮らせるまち	吹田市に住んでいる	76.3
	吹田市に住んでいない	74.1
2.市民自治の確立に向けて、市民と行政とがそれぞれの役割を担うとともに、市民自らが地域課題の解決に向けて行動するまち	吹田市に住んでいる	53.5
	吹田市に住んでいない	70.4
3.市民一人ひとりの防災意識と地域防災力・減災力が高まり、災害に強いまち	吹田市に住んでいる	56.7
	吹田市に住んでいない	59.3
4.市民一人ひとりの防犯意識や犯罪を許さないという気運が高まり、だれもが安心安全に暮らせるまち	吹田市に住んでいる	67.0
	吹田市に住んでいない	64.8
5.高齢者が住み慣れた地域ですこやかに、安心して暮らし続けられるまち	吹田市に住んでいる	71.6
	吹田市に住んでいない	81.5
6.障がいの有無にかかわらず、住み慣れた地域で安心して育ち、学び、働き、暮らし続けられるまち	吹田市に住んでいる	57.2
	吹田市に住んでいない	70.4
7.地域福祉活動と総合的な生活保障により、だれもが地域で互いに支え合いながら、安心して暮らせるまち	吹田市に住んでいる	60.9
	吹田市に住んでいない	70.4
8.市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組み、生活の質を高めながら健康寿命を伸ばし、すこやかに安心して暮らせるまち	吹田市に住んでいる	74.9
	吹田市に住んでいない	72.2
9.安心して子供を産み育てられ、すべての子供がすこやかに育つことができるまち	吹田市に住んでいる	72.6
	吹田市に住んでいない	85.2
10.子供たちが新しい時代を生き抜くために必要となる学力、人間性、体力を育むことができるまち	吹田市に住んでいる	61.4
	吹田市に住んでいない	79.6
11.家庭、地域、学校の連携・協働のもと、青少年のすこやかな成長を支えるまち	吹田市に住んでいる	67.9
	吹田市に住んでいない	79.6
12.いつでも、どこでも、だれでも、さまざまな生涯学習活動に取り組むことができるまち	吹田市に住んでいる	70.2
	吹田市に住んでいない	75.9
13.持続可能な社会の実現に向けた先進的な取組が進められ、良好な生活環境が整ったまち	吹田市に住んでいる	60.5
	吹田市に住んでいない	75.9
14.地域の特性を生かしたまちづくりが進められ、みどり豊かで安全・快適に暮らせるまち	吹田市に住んでいる	78.6
	吹田市に住んでいない	83.3
15.道路、水道、下水道などの適切な維持や、公共交通の利便性の向上により、だれもが安全・快適に暮らせるまち	吹田市に住んでいる	77.7
	吹田市に住んでいない	83.3
16.地域経済の活性化が図られ、だれもが働きやすい環境が整ったまち	吹田市に住んでいる	49.3
	吹田市に住んでいない	74.1
17.文化やスポーツを通じて、より豊かな市民生活を営める魅力あるまち	吹田市に住んでいる	76.3
	吹田市に住んでいない	90.7
18.まちのさまざまな魅力の向上により、市民が愛着や誇りをもち、住み続けたいと思えるまち	吹田市に住んでいる	81.4
	吹田市に住んでいない	81.5
19.限られた財源や人材などの行政資源が有効活用され、新たな行政課題に柔軟に対応しながら、持続可能な行政運営が行われているまち	吹田市に住んでいる	53.5
	吹田市に住んでいない	74.1

IV. 吹田市のまちづくりに関する大学生アンケート

1. 調査概要

(1) 調査の目的

吹田市のまちづくりに関する市民アンケートでは声が拾いにくい世代（主に 20 代）からの意見把握を目的に、市内 2 大学において行った本市企画財政室の講義の際に、その受講生を対象にアンケートを実施した。

(2) 調査日

令和 4 年（2022 年）12 月 5 日（月）、13 日（火）

(3) 調査方法

ア Web アンケート回答用の URL 及び QR コードを受講生に周知し、Web 回答による回収を行った。（関西大学）

イ 大学内のシステムを利用し、アンケートの周知、回収を行った。（大阪学院大学）

(4) 調査対象

関西大学及び大阪学院大学の学生

（両大学で行った本市企画財政室による講義の受講生）

(5) 調査項目

総合計画の 19 のめざすまちの姿の到達度

(6) 回答結果

有効回答数 178 件

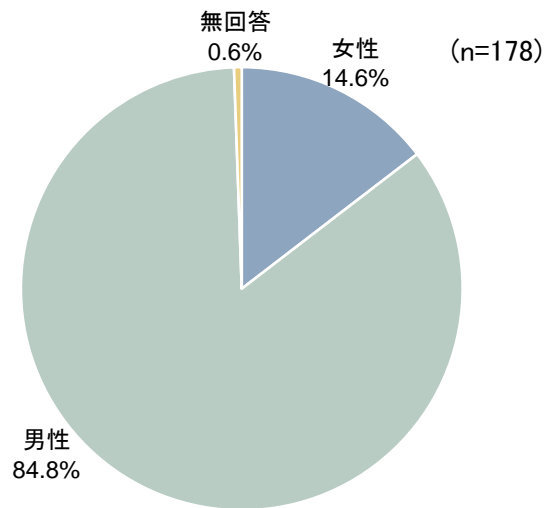
2. 調査結果

(1) 回答者の属性

ア 性別

回答者の性別で見ると、「男性」(84.8%)の方が、「女性」(14.6%)よりも回答割合が多い。

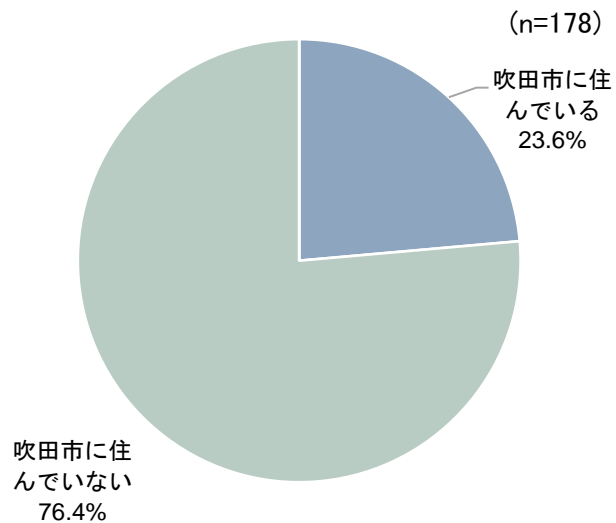
図表 IV-1 大学生アンケート回答者の性別割合



イ 居住状況

回答者のうち、「吹田市に住んでいない人」が76.4%、「住んでいる人」は23.6%である。

図表 IV-2 大学生アンケート回答者の居住状況



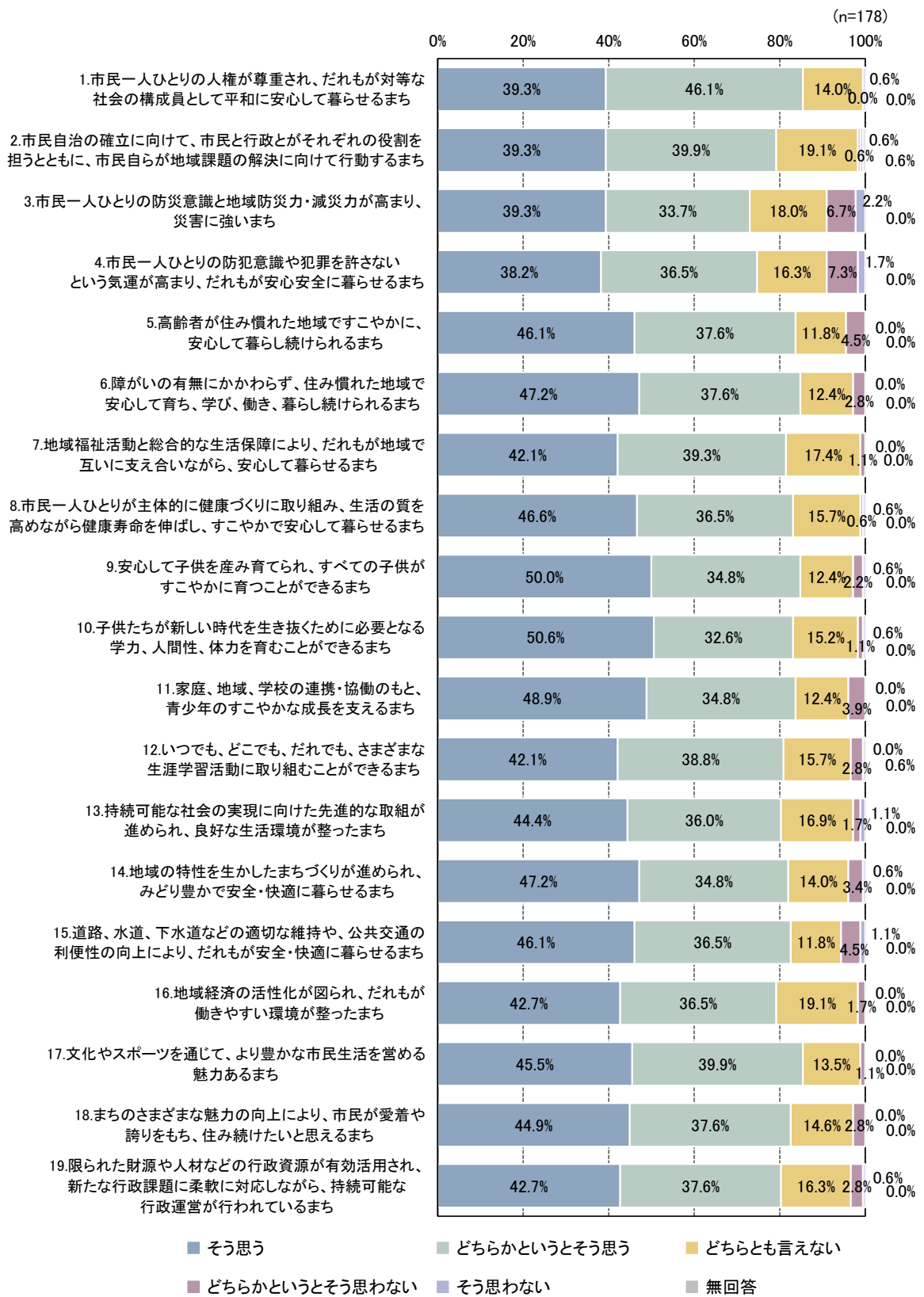
(2) 総合計画の 19 のめざすまちの姿の到達度

吹田市が定める 19 のめざすまちの姿について、それぞれに近づいていると思うかを尋ねた。

「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計をみると、「1.市民一人ひとりの人権が尊重され、だれもが対等な社会の構成員として平和に安心して暮らせるまち」「17.文化やスポーツを通じて、より豊かな市民生活を営める魅力あるまち」（85.4%）の割合が最も高く、次に「6.障がいの有無にかかわらず、住み慣れた地域で安心して育ち、学び、働き、暮らし続けられるまち」「9.安心して子供を産み育てられ、すべての子供がすこやかに育つことができるまち」（84.8%）が続く。

一方で、「そう思う」と「どちらかというと思う」の割合が低いものは、「3.市民一人ひとりの防災意識と地域防災力・減災力が高まり、災害に強いまち」（73.0%）、「4.市民一人ひとりの防犯意識や犯罪を許さないという気運が高まり、だれもが安心安全に暮らせるまち」（74.7%）である。

図表 IV-3 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度(大学生アンケート)



V. 参考：吹田市職員アンケート

1. 調査概要

(1) 調査の目的

第4次総合計画の見直し作業を進めるに当たって参考とするため、本市職員に対し、第4次総合計画の19のめざすまちの姿の到達度と、推進していくべきと考えるSDGsの目標についてアンケート調査を実施した。

(2) 調査日

1回目：令和4年（2022年）9月7日（水）～21日（水）

2回目：令和4年（2022年）10月5日（水）～25日（火）

(3) 調査方法

事務なび（庁内で情報を共有するためのシステム）を用いて周知を実施し、庁内電子申込システムによる回収を行った。

(4) 調査対象

吹田市職員

(5) 調査項目

ア 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度

イ SDGsの認知度、注力すべきゴール

(6) 回答結果

有効回答数 629 件

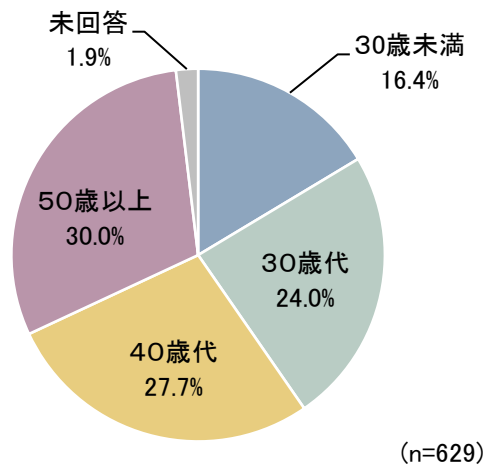
2. 調査結果

(1) 回答者の属性

ア 年齢

回答者の年齢は、「50歳以上」(30.0%)の割合が最も高く、次に「40歳代」(27.7%)、「30歳代」(24.0%)、「30歳未満」(16.4%)が続く。

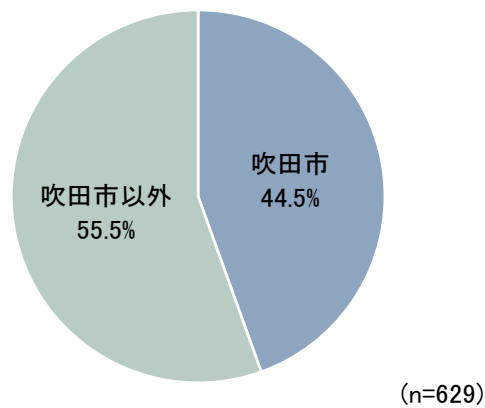
図表 V-1 職員アンケート回答者の年齢割合



イ 居住地

回答者の居住地は、「吹田市」が 44.5%、「吹田市以外」が 55.5%で、吹田市以外の方が割合が高い。

図表 V-2 職員アンケート回答者の居住状況



(2) 総合計画の 19 のめざすまちの姿の到達度

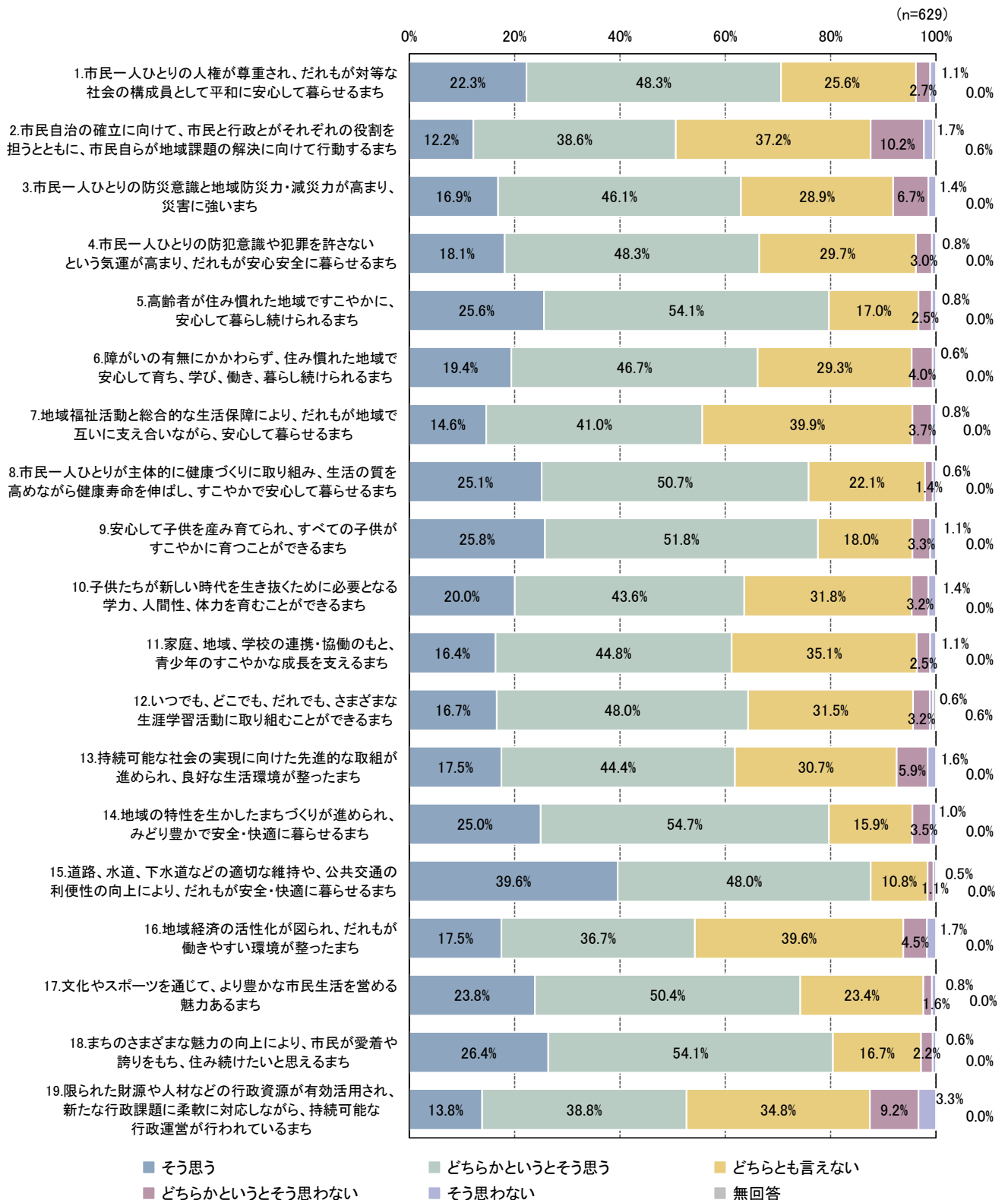
ア 総合計画の 19 のめざすまちの姿の到達度

総合計画の 19 のめざすまちの姿について、それぞれに近づいていると思うかを尋ねた。

「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計をみると、「15.道路、水道、下水道などの適切な維持や、公共交通の利便性の向上により、だれもが安全・快適に暮らせるまち」（87.6％）の割合が最も高く、次に「18.まちのさまざまな魅力の向上により、市民が愛着や誇りをもち、住み続けたいと思えるまち」（80.4％）、「5.高齢者が住み慣れた地域ですこやかに、安心して暮らし続けられるまち」「14.地域の特性を生かしたまちづくりが進められ、みどり豊かで安全・快適に暮らせるまち」（いずれも 79.7％）が続く。

一方で、「そう思う」と「どちらかというと思う」の割合が低いものは、「2.市民自治の確立に向けて、市民と行政とがそれぞれの役割を担うとともに、市民自らが地域課題の解決に向けて行動するまち」（50.9％）、「19.限られた財源や人材などの行政資源が有効活用され、新たな行政課題に柔軟に対応しながら、持続可能な行政運営が行われているまち」（52.6％）である。

図表 V-3 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度(職員アンケート)



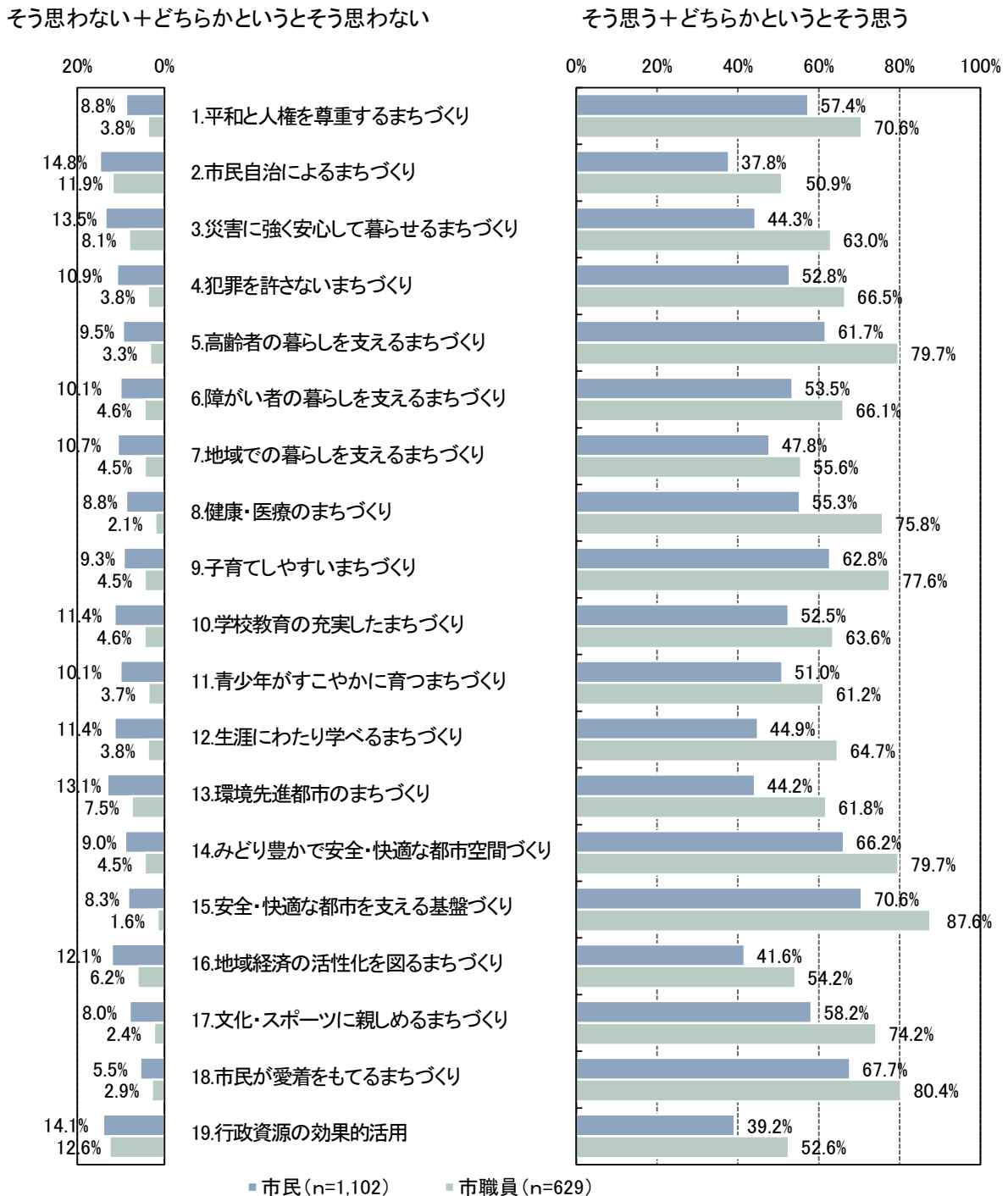
イ 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度（市民・市職員比較）

全体的に職員の評価が市民の評価を上回る形となったが、評価の傾向は類似している。

総合計画のめざすまちの姿に近づいているかどうかを聞いており、市民にとってあまりなじみがない政策などは評価が難しかったものと思われる。

クロス集計などの分析も行いながら、市民と職員の評価の比較を行い、評価の差が大きかった項目については必要に応じて取組や周知・発信の強化などを検討していく。

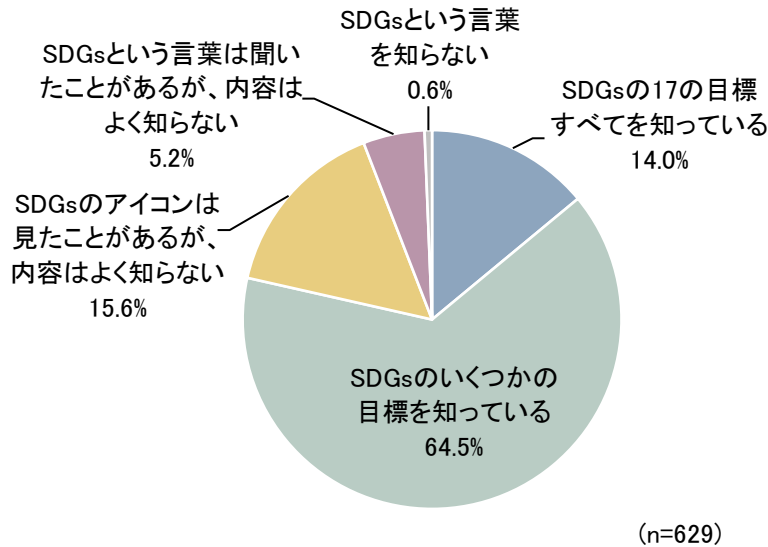
図表 V-4 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度（市民・職員比較）



(3) SDGs の認知度、注力すべきゴール

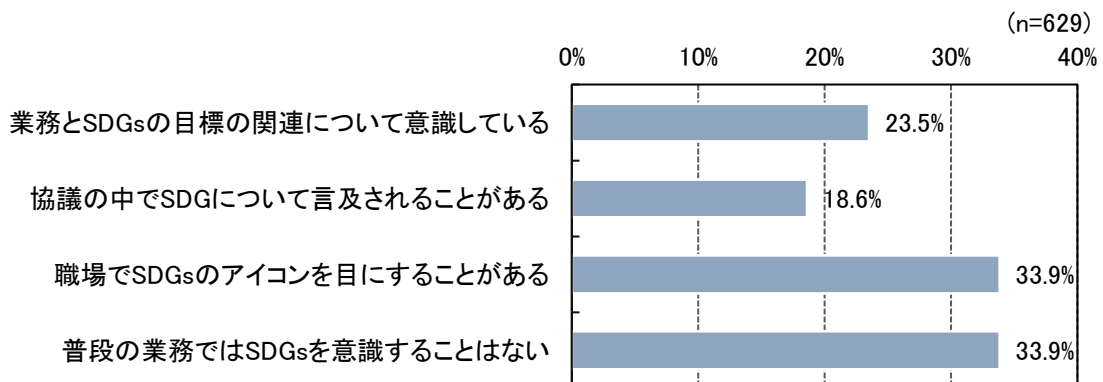
SDGs の認知度を尋ねたところ、「SDGs の 17 の目標すべてを知っている」(14.0%) と「SDGs のいくつかの目標を知っている」(64.5%) を合わせて、SDGs の 17 の目標を知っている回答者は約 8 割である。

図表 V-5 SDGs の認知度



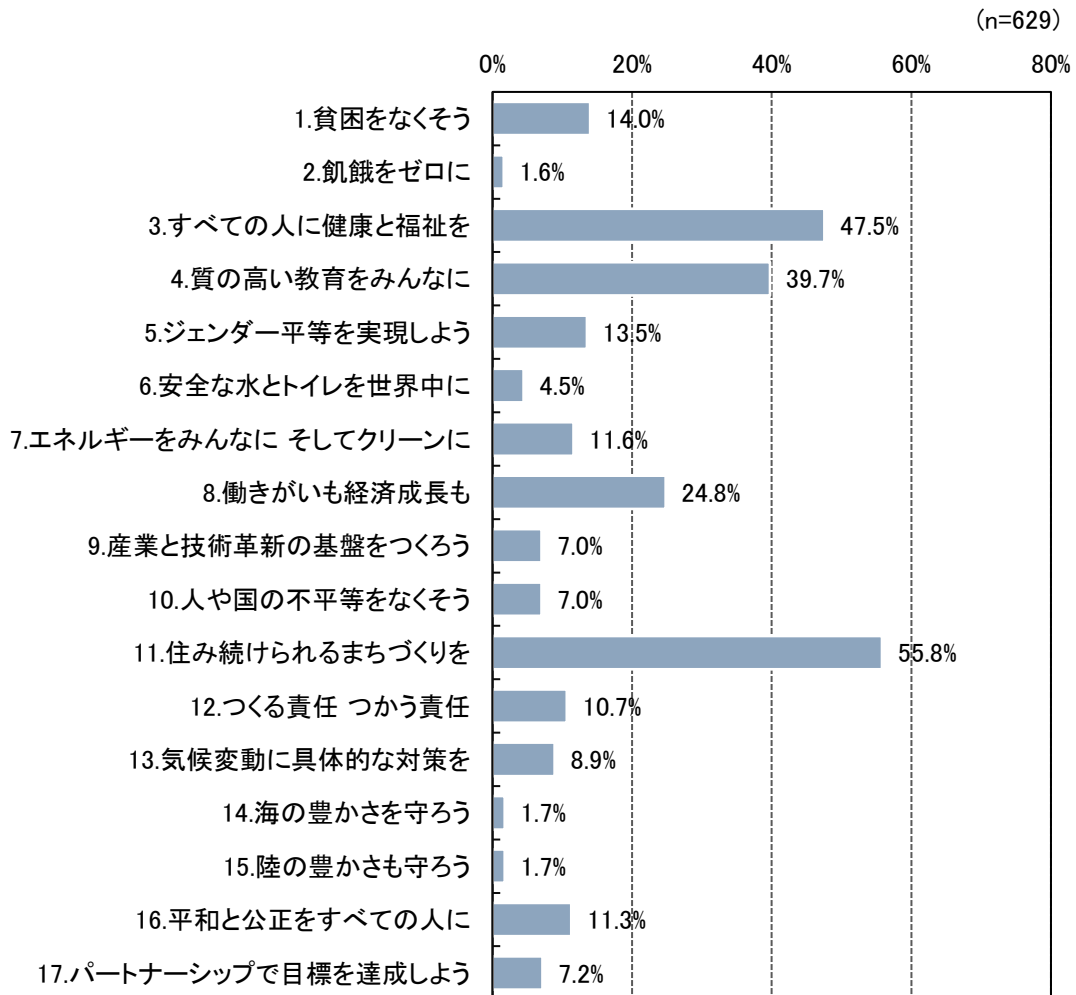
業務を行うに当たっての SDGs への意識については、「職場で SDGs のアイコンを目にすることがある」が 33.9%で、次に「業務と SDGs の目標の関連について意識している」(23.5%)、「協議の中で SDGs について言及されることがある」(18.6%)が続くが、「普段の業務では SDGs を意識することはない」とする回答も 3 割を超える。

図表 V-6 業務を行うに当たっての SDGs への意識



17 の SDGs のゴールのうち、吹田市が特に注力すべきゴールについては、「11. 住み続けられるまちづくりを」(55.8%)と「3.すべての人に健康と福祉を」(47.5%)を選択した回答者が約半数であり、次に「4.質の高い教育をみんなに」(39.7%)、「8.働きがいも経済成長も」(24.8%)が続く。

図表 V-7 吹田市が特に注力すべき SDGs のゴール



VI. #2050 すいたストーリー

1. 募集概要

(1) 募集の目的

20 歳代以下の若い世代を中心に吹田市の将来についての意見聴取、また、第 4 次総合計画見直しに向けた機運醸成を目的に、「#2050 すいたストーリー」と題して「あなたの思い描く 2050 年のすいた」（「2050 年は、こんな吹田だったらいいな」という声）を募集した。

高校生を対象としたプレ企画では、吹田市の未来を思い描いた「2050 年（2032 年）のある日、吹田市に暮らす私の日記」として募集した。

(2) 募集期間

令和 4 年（2022 年）10 月 15 日～12 月 31 日
（プレ企画は令和 4 年（2022 年）6 月に実施）

(3) 対象

- ・吹田市に関心がある方、「IV. 吹田市のまちづくりに関する大学生アンケート」の調査対象者
- ・千里高校 1 年生（国際文化科 4 クラス）の生徒（プレ企画）

(4) 募集方法

市ホームページの専用回答フォーム又は Twitter からの投稿、及び本市企画財政室による講義・授業の出席者からの提出

(5) 募集結果

258 件（千里高校でのプレ企画（令和 4 年（2022 年）6 月実施）を含む）

(6) 募集テーマ

- ・あなたの思い描く 2050 年のすいた
- ・「2050 年（2032 年）のある日、吹田市に暮らす私の日記」（プレ企画）

2. 募集結果

(1)「#2050 すいたストーリー」の例

応募された内容の例は下記のとおりである（抜粋し、一部加工）。

図表 VI-1 「あなたの思い描く2050年のすいた」内容の例

- ・2050年は様々な面でより発展した市であり、子供から高齢者まで安心して暮らせるような、ずっと住み続けたいと思えるような吹田市であってほしい。
- ・現在よりも全体的に活気があり、犯罪や環境汚染などがなく、老若男女・大人・子供・障がい者問わず安心して暮らし続けることができ、市外の方々から「ここに行ってみよう」「ここに来て本当によかった」、そして市民から「ここにずっと暮らしたい」「ここに住んで本当によかった」と思われるような吹田市であってほしい。
- ・老若男女問わず、みんなが住みやすい環境であり、少子高齢化が進む中、吹田市は将来を担う子供たちで賑わっているまちであってほしい。
- ・人と人が助け合い、困っている人がいたらその場にいる皆でその人をサポートしたりできる人間関係のいいまち、将来の宝である子供がすくすく育つことのできる子供とその保護者に優しいまちであってほしい。
- ・犯罪が少ないまちだったらいいなと思う。安全なまちだとみんなが安心して暮らせる。まちがきれいだったらいいなと思う。公園や道路にゴミがなかったら気持ちよく過ごせる。
- ・誰もが笑顔で、住み心地がよく、いろんなものがあり、利便性においても環境においても大阪で一番になってほしい。

図表 VI-2 プレ企画「2050年のある日、吹田市に暮らす私の日記」内容の例

2050年 5月12日 快晴

世界、日本、そして各自治体が地球温暖化防止に取り組んできた結果、ようやく春を感じられた気がする。天気がよく湿度も高くない。吹田市はさらに緑も増え、自治体によって誰もが住みやすい街になったなと実感する。

吹田市では各家庭に、子供の教育のための支援金が配られている。そのおかげで子供を持つ人が増え、少子高齢化の問題も解消されつつある。子供たちがストレスなく元気に暮らせる素晴らしい街になった。

この町ではコロナ禍の後で活気のなくなった人々を元気にさせたいという思いで、たくさんの行事を実施し、おかげでみんながフレンドリーで思いやりのある素晴らしい街になった。これからも故郷である吹田市とともに生きていきたいと思う。

2050年 12月24日

今日は朝からよく晴れた天気だった。12月だというのに気温が24℃だったというのは、私が学生の頃では信じがたい話だろう。ホワイトクリスマスという言葉が懐かしい。

私は現在、吹田市に家族4人で暮らしている。もともとは、他の街に住んでいたのだが、約80年も前に作られた千里ニュータウンの古くなった団地やマンションを再整備・リノベーションし、再生利用しているという話に興味を持ち、ここ吹田に越してきたのだ。吹田はとても住心地がよく、子育てにもとても良心的なので、この街に住み続けたいと思えるのだ。

今日で今年の勤務が終了し、長期休暇に入った。私の職業は、AIやロボットの自動制御システムのコントロールや管理などで、在宅勤務である。30年前のコロナウイルス感染によって在宅勤務の技術が急速に発達し、現在では在宅勤務が当たり前になった。また、家事の省力化や育児負担の軽減の観点から、ほとんどのことを家の中で完結できるようにもなった。なので、今日はクリスマスということもあり、妻や息子たちと共に過ごした。今日はとても有意義な一日だった。明日からの長期休暇がとても楽しみだ。

(2) 総合計画の大綱ごとによる分類

意見を、総合計画の8つの大綱ごとに分類した結果は下記のとおり。

大綱	キーワード（抜粋）（意見の多かったものに下線）	
	「2050年は、こんな吹田だったらいいな」	「2050年のある日、吹田市に暮らす私の日記」
大綱1 人権・市民自治	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>人柄がとてつよい、人が優しい</u> ・<u>人権が尊重され、等しく守られる</u> ・平和 ・さまざまな人の交流、地域交流がある ・地域でのコミュニティ活動の活性化 ・住民参加型のまちづくり ・高齢者と若い人たちが交流できる場所 ・市が発信する情報がおもしろい ・多様性がある ・「自分の半径2メートル程度の範囲の吹田」を大切に自分たちで守って いこうと思っている人が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>ジェンダー平等</u> ・<u>同性婚制度の確立</u> ・多様性（人権・人種・障がい）理解の浸透 ・女性の社会進出 ・移民の増加 ・ネット投票 ・市内行事の充実 ・地域コミュニティの消失 ・非核化と戦争への批判の強まり ・第3次世界大戦
大綱2 防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>治安がよい、犯罪がない</u> ・事故がない ・防災力・意識の向上 ・地震予知の技術の向上 ・災害や犯罪の有事の際に誰一人見捨てられない 	<ul style="list-style-type: none"> ・テロ事件発生 ・台風発生抑制技術による台風の ない世界の実現
大綱3 福祉・健康	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>高齢者・障がい者に優しい</u> ・喫煙率0% ・医療が充実 ・動物虐待ゼロ ・人と人が助け合い、困っている人がいたらその場にいる皆でその人をサポートできる ・障がい者が不自由なくみんなが助け合いながら暮らせる ・「助けて」と素直に言え「気軽に助け合い」ができる ・高齢者、大人、子供たち全員が活発 ・誰にとっても住みやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>コロナ収束、新たな感染症の流行</u> ・<u>人口減少、少子高齢化の進展</u> ・<u>少子高齢化に歯止め、人口増</u> ・肥満増 ・オンライン診療の普及 ・平均寿命の延伸 ・後期高齢者の運転の原則禁止 ・がんワクチンの開発 ・整形手術の進歩と浸透 ・安楽死の合法化 ・高齢者施設の増加、年金減少、孤独死の増加

大綱	キーワード（抜粋）（意見の多かったものに下線）	
	「2050年は、こんな吹田だったらいいな」	「2050年のある日、吹田市に暮らす私の日記」
大綱4 子育て ・教育	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>子育て支援の充実</u> ・出産、育児をしやすい環境 ・子供がのびのびと成長できる ・子供と保護者に優しい ・子供のための施設の充実 ・将来を担う子供たちで賑わう ・放課後に過ごしやすい ・児童虐待がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>子育て支援の充実</u> ・<u>教育現場でのオンライン化・ペーパーレス化</u> ・待機児童ゼロ ・教育現場へのロボット導入 ・教育現場における国際交流の活性化 ・小中合同部活動 ・学校での熱中症対策 ・大学まで学費無償化 ・リカレント教育の必要性
大綱5 環境	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>ゴミがなく、きれい</u> ・歩きタバコがない ・空気がきれい ・ゼロカーボンの達成 ・太陽光パネル ・ゴミが少なくリサイクルが多くできている 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>地球温暖化の進行、異常気象、海面上昇</u> ・<u>地球温暖化に歯止め、環境問題の解決</u> ・<u>代替エネルギーの普及</u> ・緑地面積の増加、リサイクル率 90% ・生態系の急変 ・魚が食べられなくなる ・オゾン層の破壊、森林破壊の進行 ・ごみ問題の解決 ・食料不足、人口肉技術の発達
大綱6 都市形成	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>交通利便性の向上</u> ・<u>緑が多い、自然が身近</u> ・<u>バリアフリー化が進展</u> ・歩道・自転車専用道の整備 ・坂道・階段の負担軽減 ・インフラの整備・維持管理 ・街灯の充実 ・子供が遊ぶ場所、公園が充実 ・違法駐輪ゼロ、交通渋滞ゼロ ・日常的に活用できるウォーキングエリアがある ・大学生や地域住民との交流が盛んな賃貸住宅がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>ドローンの普及（輸送技術の進歩）</u> ・<u>空飛ぶ車</u> ・電気自動車、自動運転 ・地下道路の発達 ・移動技術の進歩、リニアモーターカーの新型車両 ・超高層ビルの建設、景観の改善 ・千里ニュータウンの再整備・リノベーション ・公園でスマホやゲーム

大綱	キーワード（抜粋）（意見の多かったものに下線）	
	「2050 年は、こんな吹田だったらいいな」	「2050 年のある日、吹田市に暮らす私の日記」
大綱 7 都市魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>観光地、娯楽、飲食店の充実により、人々で賑わっている</u> ・<u>誰もが知っている、大阪のシンボルのような存在</u> ・<u>外国人も過ごしやすい</u> ・<u>グローバル化の推進</u> ・もっと吹田くわいが有名になっている ・AI などを活用した商業や製造の機械化の進展 ・働きやすい ・ドーム球場の設置 ・世界的なスポーツのビッグイベントを開催 ・居心地がよい ・「吹田市っていいよね」って思っている人が多い ・「ここにずっと暮らし続けたい」と思われる ・子供から大人まで多くの人に愛される 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>テレワーク</u> ・<u>AI・ロボットの普及による雇用減少</u> ・定年延長（70 歳、85 歳） ・女性社員の増加・女性の就業率上昇 ・労働時間の減少 （1 日 6 時間、週休 3 日、自由な労働時間） ・障がい者が働きやすい ・通勤への回帰 ・観光客の増加
その他 （分野横断的なもの）	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>みんなが笑顔で過ごせる</u> ・<u>どの世代の人にも優しい</u> （子供から高齢者まで安心して暮らせる、老若男女・大人・子供・障がいのある人問わず安心して暮らし続けることができる） ・若者と高齢者が手を取り合い優しい雰囲気 ・持続可能な社会をめざしている ・どんなことがあっても乗り越えられる ・みんながハッピー ・日本で一番いいまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>AI の進歩・浸透</u> ・<u>技術（情報、映像、バイオ燃料）の進歩</u> ・<u>宇宙政策・宇宙旅行</u> ・家事の省力化・自動化 ・メタバースの発展 ・アフリカが先進国に ・無人レジの浸透 ・少子高齢化や AI 導入に伴う市民の所得低下・税収の低下 ・物価高騰 ・経済格差の拡大 ・スマホ依存症

VII. 市民公益活動団体ワークショップ

1. ワークショップ概要

(1) ワークショップの目的

さまざまな分野と現場で活動を展開している市民公益活動団体から、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受けて活動の中で感じた変化や、行政とは異なる視点から見える市民目線での意見を、ワークショップ形式で聴取することを目的とした。

(2) ワークショップの日時・対象・テーマ・実施方法

ア 実施日

令和5年（2023年）2月13日（月）

イ 対象

吹田市内で活動する市民公益活動団体

ウ 参加人数

19名

（1 保健・医療・福祉、2 社会教育、3 まちづくり、4 学術・文化・芸術・スポーツ、5 環境、6 地域安全、7 人権・平和、8 男女共同参画、9 子供の健全育成、10 情報化、11 経済活動活性化 などの分野から 18 団体）

エ 意見交換テーマ

- （ア）新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響など、活動する中で感じた変化
行政とは異なる視点から見えたトピックス
- （イ）行政と市民公益活動団体とがさらに協働しながら進めたいこと

オ 実施方法

19名の参加者を、興味のある分野ごとに4グループに分け、「大綱1 人権・市民自治」「大綱3 福祉・健康」「大綱4 子育て・学び」「大綱6 都市形成 / 大綱7 都市魅力」の各テーマで意見交換を行った。

2. ワークショップの結果（総括）

【課題】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、活動拠点の閉鎖や不足、オンラインによる活動の限界、人数制限、活動の目的の見直しなど、様々に制約があり、活動が十分にできていない状況にあるという意見が多くあった。
- ・協働という側面からは、市民公益活動団体と市との連携の難しさや協働の更なる必要性に対する意見が多くあった。

【協働しながら進めたいこと】

- ・市民と行政との協働に向けた仕組みづくりについて、連携強化や交流できる場づくりについて意見があった。
- ・また、今後の課題解決に向けて、市民参画の場づくり、情報の相互共有、広報活動の必要性についても意見があった。

3. ワークショップの結果（詳細）

(1) 各グループでの意見

<p>グループ1（テーマ：大綱1 人権・市民自治） 【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルス感染症の影響 <u>活動に制限</u> （人数制限、中止、換気・消毒、活動拠点不足、人材不足等） ● <u>デジタルデバイドの発生</u> （オンライン活動への対応、情報の取り方に差） ● 市民自治 <u>行政と市民の間にギャップ</u> （活動の大切さ、課題の捉え方、行政の役割と活動内容の乖離、立場が対等ではない） <p>【協働しながら進めたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 仕組みづくり <ul style="list-style-type: none"> ・多様な市民が交流できる場について協働で考える ・市民の意見などを広く収集して、市政に反映させる ・市民による市政の評価制度や市民活動団体の課題・成果を公表する仕組みづくり 	<p>グループ2（テーマ：大綱3 福祉・健康） 【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルス感染症の影響 <u>活動に制限</u> （イベント参加者減、配付物等への懸念、オンラインの限界、活動ができない等） ● 少子高齢化 <u>高齢化に伴う問題</u> （孤立化、認知症の高齢者が増加、8050問題等） ● <u>地域活動</u> （自治会活動の停滞、子供会の解散、災害時の見守り） <p>【協働しながら進めたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 広報活動 ● 仕組みづくり <ul style="list-style-type: none"> ・移動カフェ、出張相談会、住民が集まれる場 ・団体同士の連携 （社会福祉協議会、地域活動支援センター） ・行政が地域団体の活動を見守る、支援する
<p>グループ3（テーマ：大綱4 子育て・教育） 【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルス感染症の影響 <u>活動に制限</u> （オンライン対応が困難な年齢層も、活動が再開できない、活動拠点閉鎖、活動がなくなったことによるストレス、つながりの希薄化による閉鎖的な思考） ● 協働 連携が難しい（NPOと学校）、協働できる場が不足 ● 子供 不登校、子供の自殺 <p>【協働しながら進めたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 仕組みづくり 行政と市民、また市民公益活動団体の横のつながりの強化、活動の質の変化の見える化 ● 場づくり イベント実施、居場所づくり、市民参画の場 	<p>グループ4（テーマ：大綱6 都市形成 大綱7 都市魅力） 【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルス感染症の影響 活動拠点不足、市民への情報伝達 ● まちづくり <u>若者の参画</u> （40歳代～60歳代中心のまちづくり、若者や子供に吹田を好きになってもらう必要） ● <u>市民の参画</u> もっと市民が参画できるように （都市計画、市の政策方針） ● デジタルトランスフォーメーション（DX） デジタル環境への対応の遅れ（施設、スキル） <p>【協働しながら進めたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政と団体との連携強化 ・団体同士の連携支援 （市民活動団体、NPO、自治会） ・市民活動団体に所属せずともできる協働のあり方の検討 ・行政と民間との人事交流

VIII. 総合計画 PR 動画の作成

1. 概要

(1) 目的

キャラクターを使用した親しみやすい動画を作成し、本市ホームページで公開することにより、市民に第4次総合計画についての周知を行うことを目的とする。また、動画から、Web上で実施する簡易アンケートへと誘導を図ることで、簡易アンケートの回答率向上をめざす。合わせて、商業施設における出張アンケート実施の際にも放映することで、市民に立ち止まっていただくきっかけとしても利用する。

(2) 動画内容

- ・市長メッセージ（第4次総合計画の中間見直しにあたって）
- ・総合計画ってなに？スイタローが説明します
- ・8つのテーマ（大綱）ごとの動画




(3) 公開日

令和4年（2022年）10月15日（土）～（第4次総合計画の計画期間中は公開予定）
※市長メッセージのみ11月30日（水）までの限定公開

2. 動画の内容

総合計画の大綱ごと（1～8）に、それぞれ1分程度でまとめるという構成になっている。PR動画の作成に当たっては、尼崎市職員である江上昇氏からもアドバイスをいただいた。

(1) 動画の登場人物

スイタロー		1996年生まれ。会社員。吹田っ子。
ねーちゃん		スイタローの姉。物知り吹田っ子。妊娠中。
にーさん		ねーちゃんの夫
ばーちゃん		スイタローの祖母。特技ラップ。しっかり者。
偽スイタロー		明らかに怪しい風貌。吹田市外在住。生活は案外ちゃんとしている。
クスノキ		吹田市民の木
サツキ		吹田市民の花

(2) PR 動画の台本

大綱 1 【人権・市民自治】 平和、人権、市民自治 吹田の暮らしの基本です

ねーちゃん すいたん Twitter、また更新された！
スイタロー ねーちゃん、毎日 SNS チェックしてるなあ。それに誰？ すいたんって。新しいアイドルか何か？
ねーちゃん スイタロー、知らんの？ 吹田市のイメージキャラクターすいたんやんか。すいたんがつぶやく Twitter が結構おもしろいし、役に立つねん！
スイタロー 役に立つんかあ。でも、そんな困ってへんし、平和に暮らせてるしなー。
ねーちゃん 何言うてんの。市役所が何をしようとしているか、私ら市民がしっかり見守って、一緒に考えていかんとあかんねんで。
スイタロー さすが、ねーちゃん。吹田のこと、よく知ってるなあ。
ねーちゃん それに、平和に暮らせてるっていうけど、その平和だって市民と行政が一緒になって守ってきてるもんやねんで。
スイタロー 市民も一緒に考えていかんとあかんねんな。
ねーちゃん それにしても、ねーちゃん、すいたんはホンマ役に立つねんな。
ねーちゃん すいたんだけちゃうで。これ！（スマホ画面）吹田市の公式 LINE！！いろいろわかって、めっちゃめっちゃ便利やで！
スイタロー めっちゃめっちゃ便利って、ねーちゃん、めっちゃ宣伝するやん！（バシッ）

大綱 2 【防災・防犯】 いつもみんなで防災、防犯 安心安全、守りましょう

偽スイタロー もしもし、オレオレ。ばーちゃん助けて！
ばーちゃん スイタロー？
偽スイタロー そうそう、スイタロー。事故おこしてもーて、現金要求されて困ってんねん。100 万、用意してくれる？
ばーちゃん 詐欺やんか。切りますよ？！
偽スイタロー ばーちゃん、テスト合格！ オレオレ詐欺には気をつけてな！
ところで、還付金は受け取った？ 今なら ATM で 5 万円受け取れるらしいで！
ばーちゃん やっぱり詐欺やんか。切りますよ？！
偽スイタロー ばーちゃん、テストまたまた合格！ 還付金詐欺にも気をつけてな！ ところで…
ばーちゃん （かぶせて）気いつけなあかんのは、スイタロー、あんたや！ ガスの火は消し忘れる、鍵かけんと出かける、おつきい本棚、固定もせんと置いとる、水も食料も備蓄してへん…
偽スイタロー スイタローって、危ないな～。
オレは火元も戸締りも備蓄も、ちゃんとしてるし大丈夫やで！
ばーちゃん やっぱりあんたスイタローちゃうやんか！（ガチャン！）

大綱 3 【福祉・健康】 お一人お一人、健やかに 地域の暮らし、支え合い

スイタロー この前、ばーちゃんと一緒に歩いて出かけてんけどさ。元気やわー。
ねーちゃん そりゃそうや。ばーちゃん、65 歳からずっと介護予防講座に通ってるもん。
スイタロー そうやったん！？ 介護予防って体力落ちてから行くんやと思ってた。
ねーちゃん ちゃうちゃう。介護予防って聞いたらそう思うかもしれんけど、なるべく健康でいるため、とか思ったら、早よ始めなって思わん？
スイタロー あーたしかになー。でも三日坊主になりそうや～。
ねーちゃん 駅まで歩くとか、なるべくエレベーター使わへんとか、そういうことから始めてみたら。
スイタロー それやったらできるかな。
ねーちゃん まずは今日から、5 階の家まで階段使いや～。
スイタロー そんなんしんどすぎて、家帰られへんわ！

大綱4【子育て・学び】 妊娠、出産おめでとう 育てて学んで、生涯成長

スイタロー ねーちゃん、妊娠したんやってな。
ねーちゃん 見てや、スイタロー、市役所の保健師さんがいろいろ資料くれはったで！
(母子手帳やリーフレット、冊子など)
スイタロー ヘー、健診とか相談とか、いろんなサポートがあるんやなあ。
ねーちゃん そうやねん、生まれてくる命、一人ひとり大切にしよう、ってこと！それに、吹田は、子供の数、そんな減ってないって知ってた？
スイタロー そういえば、学校も、幼稚園や保育園も、あちこちで見えるなあ。
ねーちゃん 公民館とか図書館とか、子供も大人も学べる場所も充実してるんやで！
スイタロー ヘー、それは助かるな。吹田って子育てしやすいまちなんやな！
ねーちゃん あんたも子育て手伝ってや。
スイタロー 子供は地域の宝やからな。なんでもするで！
ねーちゃん ほな、まずは掃除と洗濯と、あと、買い物行って帰りにスイーツを…
スイタロー どんだけ頼むんや！（バシッ）

大綱5【環境】 節エネ、省エネ、ごみ減らし まちを未来につなげよう

偽スイタロー もしもし、ばーちゃん？オレオレ。
ばーちゃん スイタロー？
偽スイタロー そうそう、スイタロー。ちょっと風邪で声変わってもうてるけど、本物のスイタローやで、
ばーちゃん！
ばーちゃん (やや怪しんだ顔で) では、ここで問題です。スイタロー、エコバッグは使っていますか？
偽スイタロー もちろん！
ばーちゃん ♪お買い物にはエコバッグ、暑いときにはマイボトル。買い過ぎないで、使えるものは使い切って。ゴミは減らして、街はキレイに。暑すぎる夏には気を付けて♪
偽スイタロー なんで急に歌うんや！
ちなみに、エコバッグ、マイボトル、節約…オレ、全部やってるで！
ばーちゃん スイタローも成長したんやねえ！ゴミも、ちゃんと分けてる？
偽スイタロー もちろん！「可燃ゴミ」と、それ以外、ちゃんと分けてるで！
ばーちゃん 「カネンゴミ」？吹田の子やったら「燃焼ゴミ」とか「燃えるゴミ」って言うはずや！あんた、スイタローちゃうやろ！（ガチャン！）

大綱6【都市形成】 家、水、道路、公園、みどり いつも安全、快適に

スイタロー 市民税って、なんとかならへんかなあ。毎月毎月、結構な負担やねんけどな。税金払わんでいいまち、ないかなあ。
ばーちゃん あるで！
スイタロー それ、どこにあんの？そこに住みたいわ！
ばーちゃん ♪道に穴あいても、そのまんま。古い橋グラグラしてても、そのまんま。街路樹倒れちゃっても、そのまんま。街灯切れて真っ暗でも、そのまんま。雨で下水あふれちゃっても、そのまんま。税金いらない、何にもしない、そのまんま市は夢の街♪
スイタロー なんで急に歌うんや！
ばーちゃん スイタローは、そんな街に住みたいんやねえ。
スイタロー そんなまち、誰も住みたくないわ。やっぱり道路も水道もちゃんとあって、きれいなまちがええな。

大綱7【都市魅力】産業、文化、スポーツも 魅力向上これからも

クスノキ 「吹田市民の木」、クスノキです。
 サツキ 「吹田市民の花」、サツキです。
 クスノキ 昭和の時代から、半世紀以上、私らなりに、吹田のため、頑張ってきました。
 サツキ なのに、イメージキャラクター（←大阪弁アクセント）「すいたん」の登場で、すっかり目立たぬ存在に。私らだって、負けてへんのに！
 ※すいたん画面に登場。無言でニコニコ。
 クスノキ 今日は、吹田のことどれだけ知ってるか、すいたんと勝負や！
 サツキ 第1問 吹田市のよいところをあげてください。
 クスノキ はい！大きい病院が10以上、電車の駅も10以上、高速道路も通って、空港も新幹線も近くて、とにかく便利！
 サツキ 他はどう？
 クスノキ はい！万博記念公園があって、サッカースタジアムがあって、会社とか大学が多く、文化・芸術、スポーツもさかん！
 サツキ さすがクスノキさん、吹田のパンフレットを暗記されてますね！圧勝です！
 クスノキ やったー！これで私らも注目され…
 女性 キー！すいたんや～。
 子供 ほんまや、めっちゃかわいいい～。
 （ちやほやされるすいたんを見て、ぼうぜんとするクスノキ）
 サツキ キャラクターも自治体も、魅力のアピールが大事ってことね！
 （ポンとクスノキの肩をたたく）

大綱8【行政経営】財源、人材、システム、施設 市政の基盤を支えます

ねーちゃん もうす子供生まれるし、家計がちよっと心配やねんけど。
 にーさん そうやな。吹田市の収入と支出を家計に例えて、バランスとれてるかチェックしてみよか。
 ねーちゃん 収入は…自分で稼いだお金、たまに親からもらうお金とかかな。
 （画面に市の歳入の簡単な円グラフを出す）
 にーさん えーと、支出は…食費や光熱費、住宅費ぐらいかな。
 （画面に市の歳出の簡単な円グラフを出す）
 ねーちゃん 教育費や医療費も！それから、借金の返済も！
 にーさん 急に何かあったらあかんから、貯金もしてるで！
 （画面に基金残高の簡単な円グラフを出す）
 ねーちゃん 家計も市の財政もバランスが大事やな。このまま、仕事も家事・育児も続けていけるようにがんばろなー。
 にーさん じゃあ、明日も元気にがんばれるように、今日はビール買ってこよかな！
 ねーちゃん 急な出費は認めへんで！（バシッ！）

(3) 視聴状況（令和5年（2023年）3月1日現在）

分野	再生回数	分野	再生回数
全編一括	962回	大綱4	442回
総合計画ってなに？	240回	大綱5	154回
大綱1	202回	大綱6	160回
大綱2	161回	大綱7	172回
大綱3	171回	大綱8	173回

(4) 動画イメージ

図表 VIII-1 動画の一コマ



図表 VIII-2 市長メッセージ



IX. 総合計画 PR ポスター・チラシ

商業施設アンケートや#2050 すいたストーリーの募集を告知するための媒体としてポスター・チラシを作成し、市内公共施設及び大学等に掲示した。

図表 IX-1 総合計画 PR ポスターのデザイン

吹田市ホームページで公開!

総合計画 PR 動画 まちづくりアンケート

動画&アンケート

アンケート

HP

商業施設でも出張アンケートを実施!

イオン吹田店 10/15(土) - 11/30(水)

イオン北千里店 10/15(土) - 11/30(水)

ららぽーと EXPOCITY 10/15(土) - 11/30(水)

詳細は本市ホームページにて掲載

2022 10/15(土) - 11/30(水) 募集期間

総合計画見直し中

FUTURE

アンケート実施期間 2022 10/15(土) - 11/30(水)

#2050すいたストーリー

友達や家族と一緒に考えて、グループでの応募もOK

意見

未来

あなたの思い描く

「2050年のすいた」を募集!

Twitterで「#2050すいたストーリー」でつぶやき or 本市ホームページ投稿フォームから投稿を

お問合せ先 吹田市行政経営部企画財政室

〒564-8550 吹田市泉町 1-3-40
TEL:06-6384-1632
FAX:06-6368-7343

X. 附属資料

■ 吹田市のまちづくりに関する市民アンケート 調査票

吹田市のまちづくりに関する市民アンケート調査票

ハガキに記載された回答用 ID をご記入ください。

--	--	--	--	--	--

A. あなたご自身について

問1 あなたは、令和4年9月1日現在、何歳ですか。満年齢でご記入ください。

満 歳

問2 あなたの性別をお教えてください。(○は1つ)

1	女性	2	男性	3	その他
---	----	---	----	---	-----

問3 あなたが同居されている方をお教えてください。(当てはまるもの全てに○)

1	同居家族はいない	2	配偶者
3	18歳未満の子供	4	18歳以上の子供
5	父母・配偶者の父母	6	祖父母・配偶者の祖父母
7	孫	8	兄弟姉妹・配偶者の兄弟姉妹
9	その他		

問4 お住まいの小学校区をお教えてください。(○は1つ)

1	吹田第一小	2	吹田第二小	3	吹田第三小
4	吹田東小	5	吹田南小	6	吹田第六小
7	千里第一小	8	千里第二小	9	千里第三小
10	千里新田小	11	佐井寺小	12	東佐井寺小
13	岸部第一小	14	岸部第二小	15	豊津第一小
16	豊津第二小	17	江坂大池小	18	山手小
19	片山小	20	山田第一小	21	山田第二小
22	山田第三小	23	山田第五小	24	東山田小
25	南山田小	26	西山田小	27	北山田小
28	千里丘北小	29	佐竹台小	30	高野台小
31	津雲台小	32	古江台小	33	藤白台小
34	青山台小	35	桃山台小	36	千里たけみ小
37	わからない				

問5 あなたは、吹田市に住んで(通算)何年になりますか。(○は1つ)

1	1年未満	2	1～5年未満	3	5～10年未満	4	10～20年未満
5	20～30年未満	6	30～40年未満	7	40～50年未満	8	50年以上

C. SDGs について

問7 あなたは SDGs を知っていますか。(○は1つ)

1	SDGs の 17 の目標すべてを知っている
2	SDGs のいくつかの目標を知っている
3	SDGs のアイコンは見たことがあるが、内容はよく知らない
4	SDGs という言葉は聞いたことがあるが、内容はよく知らない
5	SDGs という言葉を知らない

問8 SDGs には 17 のゴールが設定されていますが、今後吹田市が特に注力すべきゴールはどれだと思いますか。(○は3つまで)

1	 1 貧困をなくそう	2	 2 飢餓をゼロに
3	 3 すべての人に健康と福祉を	4	 4 質の高い教育をみんなに
5	 5 ジェンダー平等を実現しよう	6	 6 安全な水とトイレを世界中に
7	 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	8	 8 働きがいも経済成長も
9	 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10	 10 人や国の不平等をなくそう
11	 11 住み続けられるまちづくりを	12	 12 つくる責任 つかう責任
13	 13 気候変動に具体的な対策を	14	 14 海の豊かさを守ろう
15	 15 陸の豊かさを守ろう	16	 16 平和と公正をすべての人に
17	 17 パートナースhipで目標を達成しよう		

D. 政策ごとのめざすまちの姿に対する評価

問9 吹田市では 19 のめざすまちの姿を定めています。それぞれ、その姿に近づいていると思いますか。(まちの姿ごとに○は1つ)

めざすまちの姿	1 そう思う	2 どちらかという とそう思う	3 言えない どちらとも	4 どちらかという とそう思わない	5 そう思わない
①市民一人ひとりの人権が尊重され、 だれもが対等な社会の構成員として平和に安心して暮らせるまち	1	2	3	4	5
②市民自治の確立に向けて、市民と行政とがそれぞれの役割を担う とともに、市民自らが地域課題の解決に向けて行動するまち	1	2	3	4	5
③市民一人ひとりの防災意識と地域防災力・減災力が高まり、 災害に強いまち	1	2	3	4	5
④市民一人ひとりの防犯意識や犯罪を許さないという気運が高まり、 だれもが安心安全に暮らせるまち	1	2	3	4	5
⑤高齢者が住み慣れた地域ですこやかに、安心して暮らし 続けられるまち	1	2	3	4	5
⑥障がいの有無にかかわらず、住み慣れた地域で安心して育ち、 学び、働き、暮らし続けられるまち	1	2	3	4	5
⑦地域福祉活動と総合的な生活保障により、 だれもが地域で互いに支え合いながら、安心して暮らせるまち	1	2	3	4	5
⑧市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組み、 生活の質を高めながら健康寿命を伸ばし、すこやかで安心して 暮らせるまち	1	2	3	4	5
⑨安心して子供を産み育てられ、 すべての子供がすこやかに育つことができるまち	1	2	3	4	5
⑩子供たちが新しい時代を生き抜くために必要となる 学力、人間性、体力を育むことができるまち	1	2	3	4	5
⑪家庭、地域、学校の連携・協働のもと、 青少年のすこやかな成長を支えるまち	1	2	3	4	5
⑫いつでも、どこでも、だれでも、 さまざまな生涯学習活動に取り組むことができるまち	1	2	3	4	5

次のページに続きます →

めざすまちの姿	1 そ う 思 う	2 ど ち ら か と い う 思 い 方	3 言 え な い ど ち ら か と も	4 ど ち ら か と い う 思 わ な い	5 そ う 思 わ な い
⑬持続可能な社会の実現に向けた先進的な取組が進められ、 良好な生活環境が整ったまち	1	2	3	4	5
⑭地域の特性を生かしたまちづくりが進められ、 みどり豊かで安全・快適に暮らせるまち	1	2	3	4	5
⑮道路、水道、下水道などの適切な維持や、公共交通の利便性の 向上により、だれもが安全・快適に暮らせるまち	1	2	3	4	5
⑯地域経済の活性化が図られ、だれもが働きやすい環境が 整ったまち	1	2	3	4	5
⑰文化やスポーツを通じて、より豊かな市民生活を営める 魅力あるまち	1	2	3	4	5
⑱まちのさまざまな魅力の向上により、 市民が愛着や誇りをもち、住み続けたいと思えるまち	1	2	3	4	5
⑲限られた財源や人材などの行政資源が有効活用され、 新たな行政課題に柔軟に対応しながら、 持続可能な行政運営が行われているまち	1	2	3	4	5

E. まちづくりに対するご意見

問10 吹田市のまちづくりに対し、ご意見がございましたら、自由にお書きください

ご協力ありがとうございました。

記入漏れがないかご確認の上、同封の返送用封筒に入れて、

9月16日(金)までに、ポストへ入れてください。